東日本大震災における
山形県の協働・支援活動の記録
～つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた～

もくじ

Ⅰ．はじめに …… 3

－１　あいさつ …… 4
特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル 代表
復興ボランティア支援センターやまがた　所長　齋藤　和人

－２　東日本大震災について …… 5

Ⅱ．山形県内の避難者の推移・避難者支援の傾向 …… 7

－１　山形県内の避難者の推移と傾向 …… 8
■山形県内の避難者の推移と傾向
岩手県・宮城県・福島県避難指示区域・福島県避難指示区域外からの避難者の推移と傾向、
山形県内における避難者数の推移、地域別に見る避難者の傾向、全国の県外避難者数、山形県避難者アンケート結果

Ⅲ．民間支援の活躍と変化 …… 13

－１　被災地支援 …… 14
■被災地支援の動向

－２　避難者支援 …… 16
■避難者支援の動向　■市町村別避難者数と支援状況

－３　保養支援 …… 19
■保養受入支援活動

－４　山形県内の支援団体紹介 …… 20

Ⅳ．復興ボランティア支援センターの設立と機能 …… 43

－１　復興ボランティア支援センターやまがた発足の経緯 …… 44
■山形県災害ボランティア支援本部～復興ボランティア支援センターやまがたの設立、事業予算
■復興ボランティア支援センターやまがた関係図 …… 45

－２　復興ボランティア支援センターやまがたの機能 …… 46
■ホームページの運営（情報の一本化）
■被災地ボランティアへの支援 …… 47
研修会の実施、ガイドブックの発行、活動先の仲介・相談、山形ボラバス推進コンソーシアムとの連携
■避難者への情報支援 …… 48
避難者向けフリーペーパー “うぇるかむ” の発行、つながろう NET
■支援団体への後方支援 …… 50
支援者のつどい～東日本大震災支援関係者連絡会議～の開催、県外ネットワーク、
ささえあいメーリングリスト／支援情報メールマガジンの運営、支援団体の仲介・相談

Ⅴ．おわりに …… 53

－１　うぇるかむ（１号～５９号） …… 54
－２　YAMAGATA 災害ボランティアガイドブック　2011 夏・冬 …… 58
－３　作成資料　山形県内の避難者 交流会一覧・主要な保養施設 …… 58
－４　復興ボランティア支援センターやまがた パンフレット …… 59
－５　発行に寄せて …… 60
特定非営利活動法人 Yamagata1　海谷　美樹
ウェザーハート災害福祉事務所 代表　千川原 公彦
特定非営利活動法人 ディー・コレクティブ代表理事（2011 年当時）
山形県環境エネルギー部　危機管理・くらし安心局　復興・避難者支援室

Ⅰ．はじめに

Ⅰ．はじめに

あいさつ

復興ボランティア支援センターやまがた
所長　齋藤　和人
特定非営利活動法人 山形の公益活動を応援する会・アミル代表



未曽有の大被害をもたらした東日本大震災が発生した 2011 年 3 月 11 日から、早や 4 年と言う月日が経過し、風化も心配されている昨今です。一方で被災された皆さんや東京電力福島原子力発電所の爆発事故により避難を余儀なくされた皆さんは、さまざまな困難や課題を抱えつつ、現在も再建に向けての取り組みに日々葛藤されている姿が見えてきます。山形県においては甚大な被害はなかったものの被災県との位置関係、特に宮城・福島両県とは峠一つを挟んで隣合わせという事もあり、ピーク時には 14,000 人弱の方が、そして減少してきたとは言え、2015 年 3 月時点でも 4,000 人超の方が生活されております。そのような状況下、県内では様々な支援活動が展開されておりますが、今までこのように大規模な災害経験のない中で、試行錯誤で支援に取り組む皆さんのサポートの必要性を感じ、2011 年 6 月に官民協働での協議体を立ち上げたのが「つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた」でした。

こうして誕生したプロジェクトは現在も進行中で、避難されている皆さんへ「うぇるかむ」の発行や Web を通じての情報支援や、支援者同士の情報交換や連携の場としての「支援者のつどい」の定期開催など、「復興ボランティア支援センターやまがた」を拠点に可能な限りのサポートを継続する覚悟です。

とは言え、時間の経過は圧倒的に早く、この震災における県内の取り組みを記録し、今後の災害時に活かす事も併せて重要だと強く感じております。そこで、これまでの活動記録をまとめ、活動を振り返り、さらに今後の方向性を探るべく、記録誌を発刊する運びとなりました。今回の発刊準備で私たちは改めて多様な支援活動と、関係されている方々の多さ、そして熱いやまがた県民の思いを再認識する事になりました。まだまだ続く避難生活とそれをサポートするみなさんの活動に、今後も少しでもお力になれるよう、私達も努力いたしたいと思っておりますので、これまで以上にご指導、ご鞭撻賜ります様お願い申し上げます。

終わりに今回の発刊に際し、ご協力いただいた関係者すべてのみなさまに心より御礼申しあげます。

[構成団体]

・特定非営利活動法人　山形の公益活動を応援する会・アミル
・特定非営利活動法人　Yamagata1
・特定非営利活動法人　ディー・コレクティブ（2011 年当時）
・山形県環境エネルギー部 危機管理・くらし安心局　危機管理課 復興・避難者支援室
・山形県企画振興部　県民文化課

東日本大震災について

2011 年 3 月 11 日 14 時 46 分、三陸沖を震源として東北地方太平洋沖地震が発生。
三陸沖最大マグニチュードは 9.0 を記録、東日本を中心として極めて激しい揺れが日本列島を襲い、この地震により波高 10m 以上、最大遡上高 40.5m にも上る大津波が発生、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に大規模な被害をもたらしました。

地震と津波による被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、全電源を喪失して原子炉を冷却できなくなり、大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故に発展しました。これにより、原発のある浜通り地域を中心に、放射能の影響を受けた周辺一帯の住民は中・長期の避難を強いられるようになりました。

◇発生日時／ 2011 年 3 月 11 日（金）午後 2 時 46 分
◇震央地／三陸沖・牡鹿半島の東南東約 130 キロメートル付近（北緯 38.1 度／東経 142.9 度）
◇震源の深さ／約 24 キロメートル
◇震源域／長さ約 450 ～ 500 キロメートル・幅約 200 キロメートルの領域（岩手沖から茨城沖）
◇マグニチュード／ 9.0
◇最大震度／震度 7（宮城県栗原市）

◇被害の状況
〔人的被害〕
全国合計　死亡 19,225 人　　行方不明 2,614 人　　負傷 6,219 人
　岩手県　死亡　5,123 人　　行方不明 1,129 人　　負傷　211 人
　宮城県　死亡 10,530 人　　行方不明 1,255 人　　負傷 4,145 人
　福島県　死亡　3,461 人　　行方不明　226 人　　負傷　183 人

〔住家被害〕
全国合計　全壊 127,830 棟、半壊 275,807 棟、一部破損 766,671 棟、床上浸水 3,409 棟、床下浸水 10,217 棟
　岩手県　全壊　19,107 棟、半壊　6,606 棟、一部破損　18,874 棟、床下浸水　6 棟
　宮城県　全壊　82,993 棟、半壊 155,126 棟、一部破損 224,176 棟、床下浸水 7,796 棟
　福島県　全壊　21,691 棟、半壊　76,290 棟、一部破損 165,029 棟、床上浸水 1,118 棟、床下浸水　338 棟

〔非住家被害〕
全国合計　公共建物 14,398 棟、その他 83,304 棟
　岩手県　公共建物　524 棟、その他　4,075 棟
　宮城県　公共建物　9,948 棟、その他 18,216 棟
　福島県　公共建物　1,296 棟、その他 29,704 棟
（2015 年 3 月 1 日現在　消防庁災害対策本部発表）

◇避難者等
全国の避難者等の数　228,863 人
避難所在地　全国 47 都道府県の 1,162 市町村
自県外の避難者等の数　福島県から 47,219 人、宮城県から 7,198 人、岩手県から 1,589 人
（2015 年 2 月 12 日現在　復興庁発表）

Ⅱ．山形県内の避難者の推移・避難者支援の傾向

山形県内の避難者の推移と傾向

■山形県内の避難者の推移と傾向

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災、及び東京電力福島第一原子力発電所事故（以下：原発事故）により岩手県・宮城県・福島県で地震や津波、原発事故の被害を受けた方々が山形県内にも避難した。市町村自治体が運営する避難所が各地に設置され受け入れを行ったが、みなし仮設住宅制度（借り上げ住宅）が開始されると、避難所からアパートや賃貸住宅、雇用促進住宅、公営住宅などに移り、山形県内の一次避難所（体育館）は 2011 年 6 月にほぼ閉鎖した。

その後避難者数は徐々に増加し、2011 年 8 月には避難者数は 10,000 人を超え、2012 年 1 月には 13,797 人と避難者の受け入れが全国で一番多い県となった。（2015 年 2 月現在は全国で 3 番目の受け入れ数）

〔岩手県・宮城県からの避難者の傾向〕

岩手県や宮城県の沿岸部からは津波被害により家屋が被害を受け、被災地の避難所から山形県内の避難所（体育館や旅館）へ移ったケースや、知人、親戚を頼って避難したケースが多い。

また、病院や介護・障がい者施設が被害を受け、移送された際に付き添いのために避難した例や、少数ではあるが、放射能に対する不安から自主避難した人もある。

避難元の復旧状況により、ゆくゆくは戻りたいと願う人が多く、生活再建のための経済的な不安や、避難元の細かな情報を求める声、避難先で同郷の人とつながりたいという声が多く聞かれる。

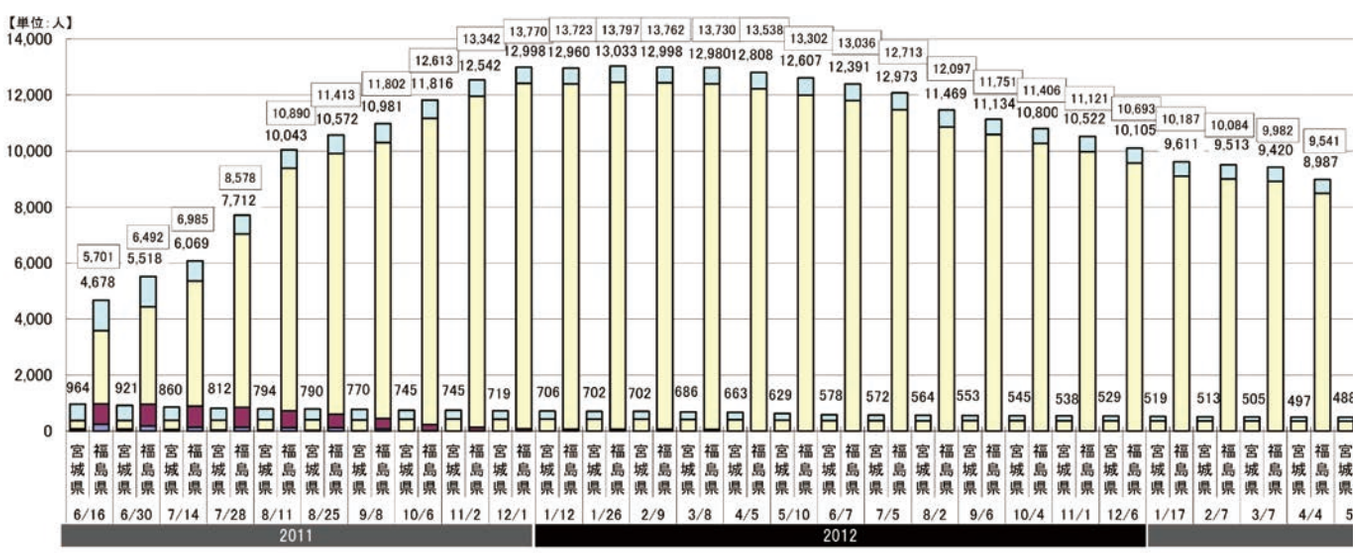
〔福島県避難指示区域からの避難者の傾向〕

原発事故発生時、福島県沿岸部の避難元市町村から発令された避難指示に従い、自家用車やバスなどで燃料が続く限り走り、山形の避難所へたどり着いたという例や、親戚や知人を頼って避難したケースが多い。

避難指示区域のうち、年月の経過とともに空間線量が下がった事が認められる市町村は徐々に避難指示が解除された。しかし、避難指示の解除が進むにつれて働き手だけが避難元の住居へ戻るケースや、高齢世代だけが避難元へ戻り、子どものいる若年世代が避難先へ残る世帯もあり、避難後新たに世帯が分離する様子も見られた。

原発事故当初、市町村から避難指示は発令されたものの、市町村ごとにまとまった避難ができなかった例が多かったため、同郷の人とつながりを求める声や、長期化が見通される避難生活の中で、借上げ住宅の住み替え要望や将来の定住先の悩みなど、住まいに関する相談の声が多く聞かれる。

図：山形県内における避難者数の推移



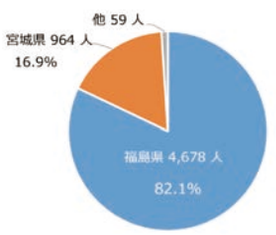
〔福島県避難指示区域外からの避難者（自主避難者）の傾向〕

山形県は福島県中通りと会津地方に隣接しており、その交通の便の良さから避難指示区域外からの避難者（以下：自主避難者）が多く山形県内に避難した。自主避難者は単身や世帯ごとの避難もあるが、親が避難元での仕事を離れることができず、母子（母子避難者）や父子、又は祖父母と孫のみで避難したケースが目立つ。

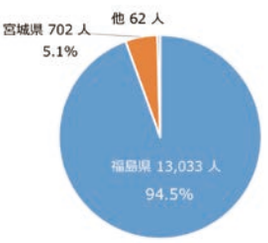
一世帯が日常の生活拠点を２か所に置き、定期的に（毎日や毎週、毎月）避難元と避難先を往復しながら生活をしている人もいる。

頼れる親類や友人がいない場所で避難生活を送る自主避難者からは、孤独な子育ての悩みや、避難者同士のつながりを求める声、いつまで避難生活を続けたら良いかなどの悩みが支援機関に多く寄せられた。また、二重生活者は生活費の二重負担や、避難元と避難先を日常的に往復する交通費などの負担が多い事から経済面での悩みの声も多い。

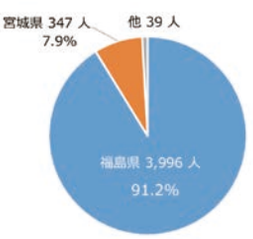
〔山形県における避難元別 避難者数の割合〕



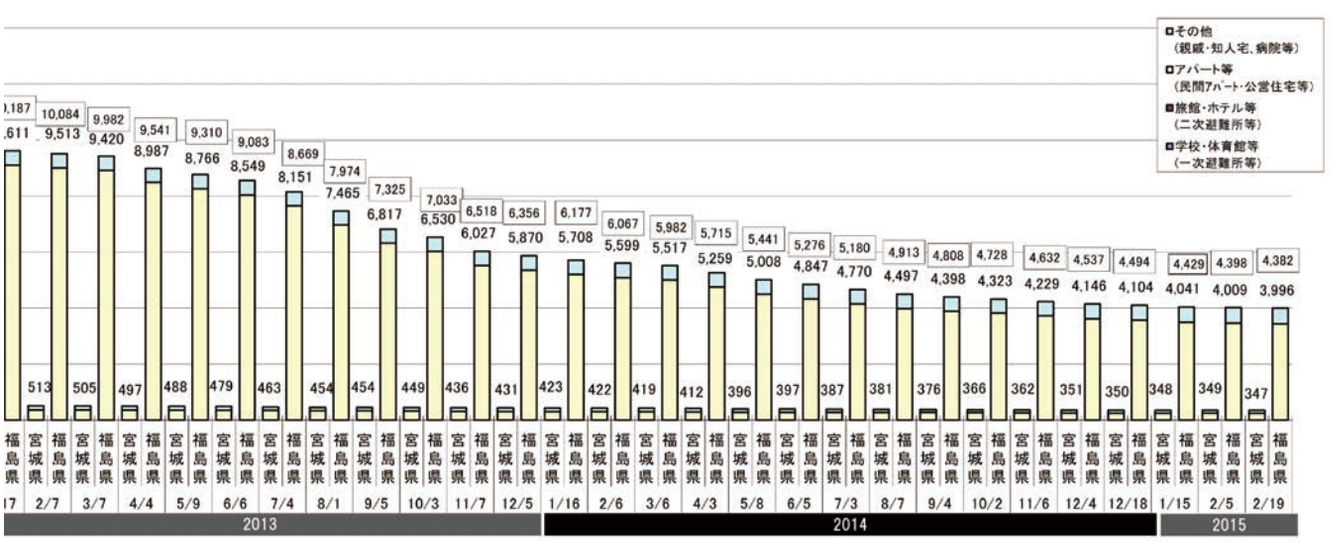
2011 年 6 月 17 日



2012 年 1 月 26 日



2015 年 2 月 19 日



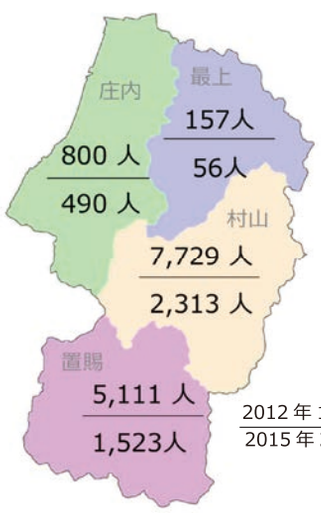
山形県広域支援対策本部避難者支援班　作成

〔地域別に見る避難者数の傾向〕

地域別に避難者数をみると、村山地区と置賜地区で全体の８割～９割の避難者数を占めている。

これは避難者が日常的に避難元へ行き来する事や、一時帰宅を考えた際の交通の利便性の理由が大きい。置賜地区や村山地区では福島県内の勤務先に通い、生活は山形県内で過ごすという形が可能である。

対して庄内地区は世帯ごとの避難や、企業ごとの避難、将来は移住を視野に入れた避難者が多く、最上地区は親類や知人を頼った避難や、地元出身者が被災を機に帰還した方が多いと考えられる。



2012 年 1 月 26 日（ピーク時）
2015 年 2 月 19 日

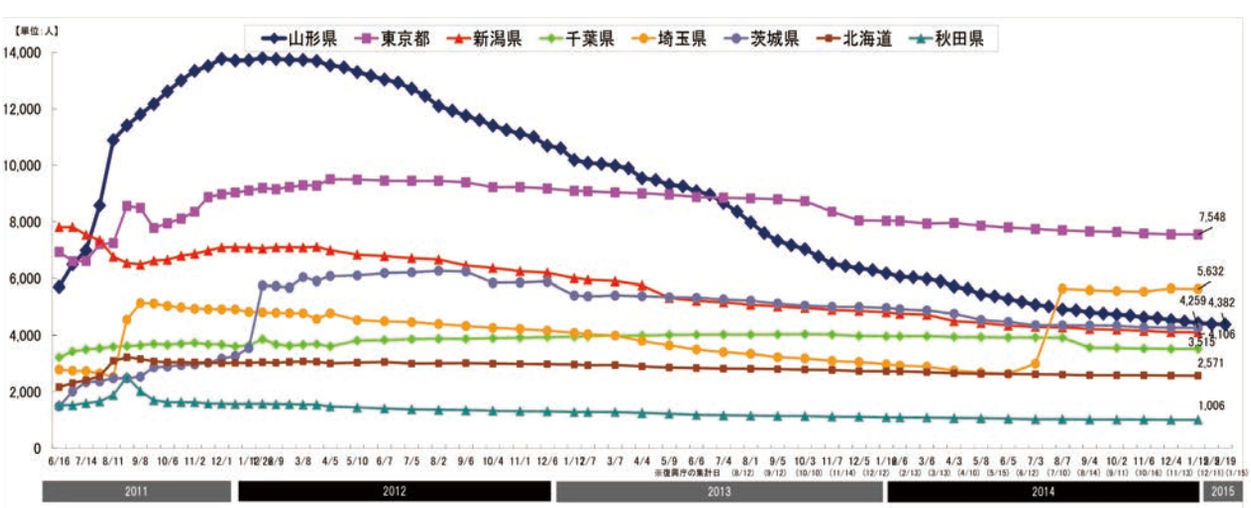
〔全国的な県外避難者数〕

県外避難者へのみなし仮設住宅制度（借り上げ住宅）開始とともに、山形県、東京都、新潟県の避難者数が特に増加。山形県はその後、１万人を越え、2013 年半ばまで全国で避難者の受入が一番多い県となった。その後、避難者は徐々に減少していく。

山形県に比べ、東京都など他県は避難者数の推移グラフは横ばいの傾向だが、これは、山形県は帰還を視野に入れた一時的な自主避難者の割合が多いという状況に加え、全国的に避難者数の統計方法が統一されていないことも一因として考えられる。山形県は避難者数を把握する際、借り上げ住宅の入居状況や親類・知人宅等の転出状況を市町村を通して定期的に調査している。

2014 年７月頃に埼玉県の避難者数が急激に増えたポイントは、埼玉県は借り上げ住宅を調査していたものの、親類、知人宅に避難している人や、自ら賃貸住宅を借りている方を含んでいなかったという理由がある。

図：主な都道県における避難者数の推移



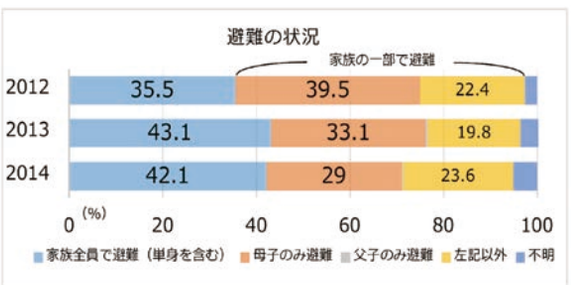
山形県広域支援対策本部避難者支援班　作成

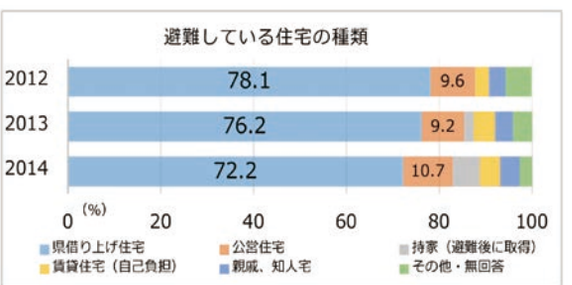
〔山形県 避難者アンケート結果〕

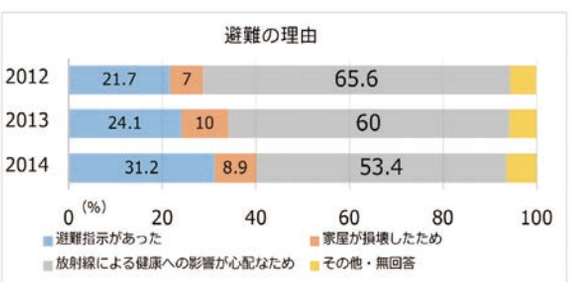
山形県は年に一度避難者アンケートを実施した。

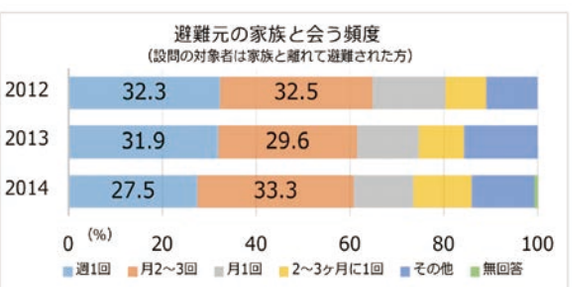
（2012 年：回収率 33.1%、2013 年：回収率 35.1%、2014 年：回収率 32.3%）

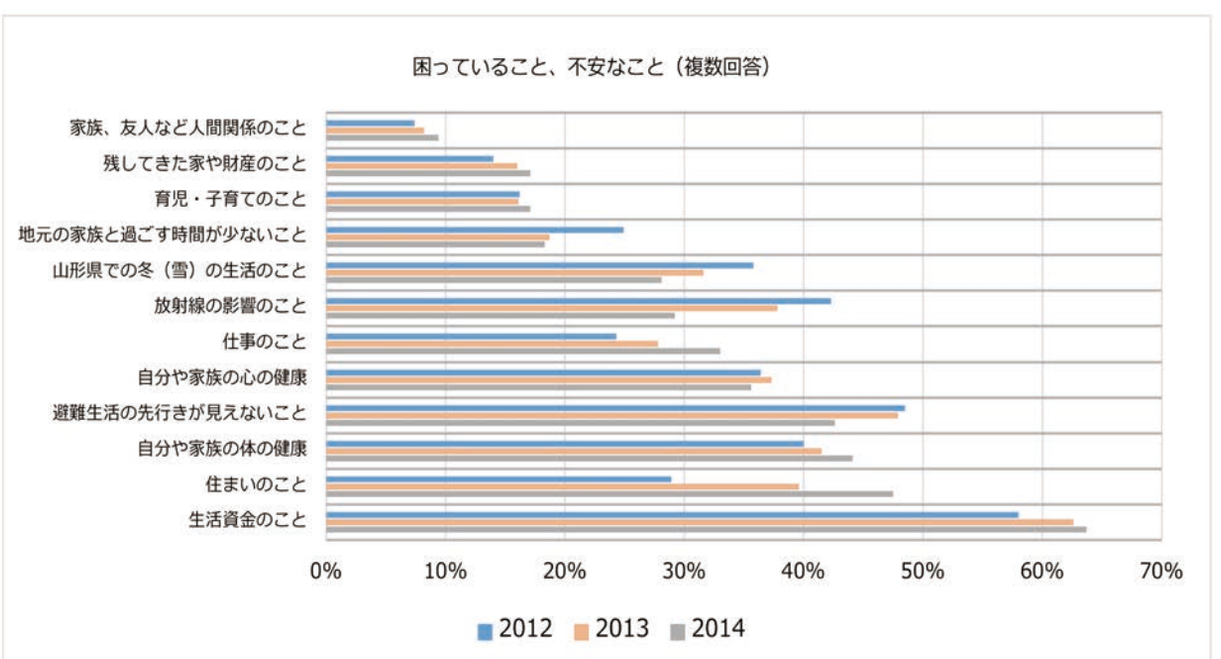
※ 2014 年 10 月 山形県広域対策本部避難者支援班　避難者アンケート調査 集計結果より抜粋）











Ⅲ．民間支援の活躍と変化

被災地支援

■被災地支援の動向

山形県は岩手県・宮城県・福島県に隣接し太平洋沿岸部への「津波被災地支援」と「山形県内に避難し生活する方への避難者支援」が現在も継続している。

避難所・在宅避難者ボランティア活動

発災直後から個人、団体で被災地の避難所へ赴き、避難所運営のサポートや物資の提供、子ども遊び、炊き出しやイベントの開催などのボランティアが行われた。

また、家屋が半壊や一部損壊の判定理由により避難所に入れなかった住民（在宅避難者）の多い地域でも同様に物資の提供や炊き出しやなどが行われた。







復旧ボランティア活動

津波被害が広域にわたり、がれきの片づけや側溝の泥だし、家屋整理の手伝いや施設の整備まで、一度に大人数の力が必要なニーズが多かったため、発災からしばらくの間、ボランティア活動の形も一度に大人数で活動できるボランティアバスや乗り合いで参加する形が定着した。

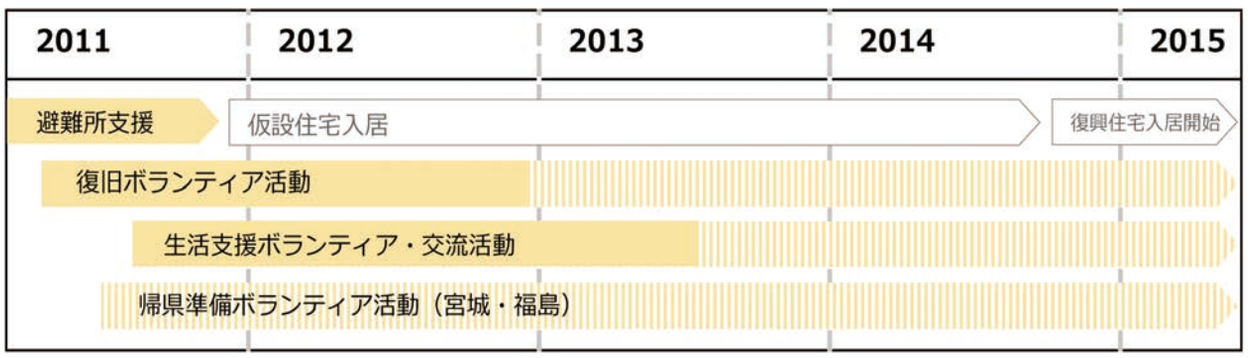
2011 年 4 月より有志団体や自治会、企業、社会福祉協議会、行政が主体となり、毎週や隔週、月に一度など、定期的なボランティアバスの運行が始まった。ボランティアバスの運行が最も多い時では十数便のバスが定期的に運行されていた。

発災より 1 年が経過した頃になると、がれきの片づけや泥出しなどの環境整備の需要が減り、ボランティアのニーズは徐々に生業の復旧作業に移行した。津波被災地は漁業や水産業、農業で生計を立てていた被災者が多く、漁具の再生の手伝いや、畑の整備などの手伝いを求められた。

また、被災地では被災した家屋の修繕需要に対して大工業者が不足し、修繕待ちの家屋の応急補修などもボランティアの手で行われた。

その他にも思い出の品（写真や記念品）や津波被害を受けた博物館や図書館の書物などを洗浄、復元する活動など、細かな分野の復旧作業も被災地や山形県内で行われた。高校や大学の生徒や教師が主体となったボランティアも活躍を見せた。学生の活動はボランティアバスの運行からはじまり、2 年目以降は被災地を学ぶ企画を取り入れたツアーなどが現在も続いている。





生活支援ボランティア活動・交流活動

避難所から仮設住宅への入居が始まると、仮設住宅での生活支援や、新たなコミュニティ作りのサポートが必要とされ、仮設住宅の環境整備（掲示板、ベンチ、プランターの設置等）の他、定期的なお茶会や手芸会、寺子屋の開催、足湯、マッサージ、上映会やコンサートなどのイベント開催や訪問見守り支援など、多岐に亘るボランティア活動が広がった。

また2011年5月頃から、被災地の避難所や仮設住宅、被災した地域の方を山形県内の温泉や果樹園、芋煮会などに招待して交流するなど、観光を取り入れた交流活動も県内各地で行われ始めた。

帰県準備ボランティア活動

津波や地震によって家屋が損壊し、避難を余儀なくされた方は、帰県を目的として家屋の修理や清掃、家屋周辺の整備を行う必要があり、一緒に被災家屋へ通い整備を補助するボランティアが必要となった。

また、原発事故の避難指示により山形県に避難したが、その後の避難指示解除により避難元へ戻る事になった避難者が、避難生活中に野生動物や植物で荒らされた家屋を清掃、整備する際にサポートするボランティアも必要とされ、少人数で一緒に避難元へ行き、家屋の清掃をするボランティアが活動した。

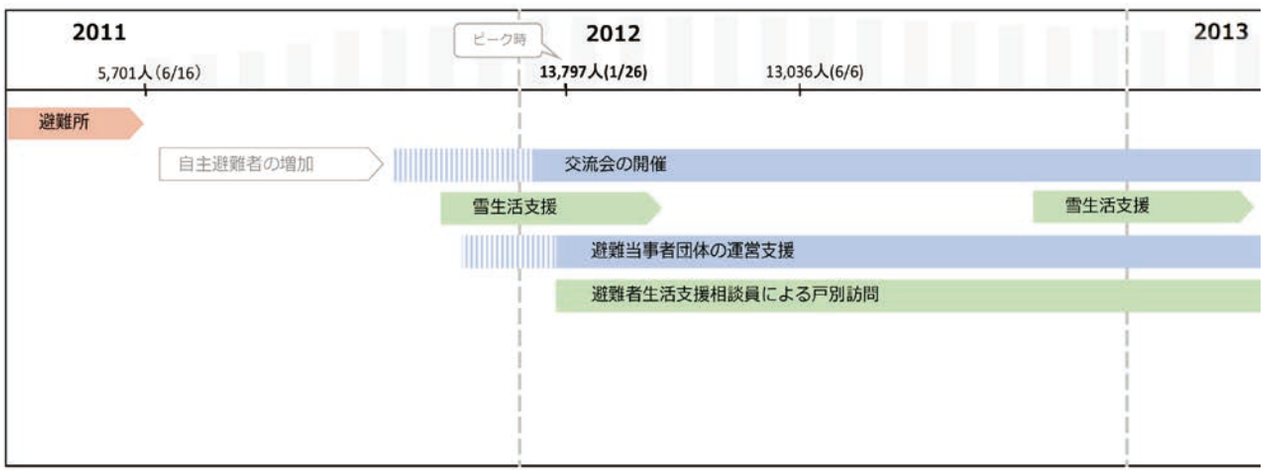






避難者支援

■避難者支援の動向



避難所運営補助（2011 年 3 月～ 6 月）

宮城県の津波被災者や福島第一原発事故の被災者が山形県内に避難。県内の自治体により避難所が開設され、ボランティアは食事や生活必需品の提供、応援イベント等の避難所運営補助を行った。

避難所から旅館やみなし仮設住宅（雇用促進住宅やアパート等）への移転が進み大規模な一時避難所が閉鎖されると支援活動は一旦終息し、その後山形市、米沢市は避難者専用の支援センターを開設した。

自主避難者（母子避難者）急増への対応
（2011 年 6 月頃～ 2012 年頃）

福島県中通りから、山形県内のみなし仮設住宅に自主避難する母子避難者が急増した。

親族や友人がいない環境下で、乳幼児を抱える若い母親の孤立状態を解消するため「母子避難者サロン」が複数開催された。山形での生活情報の提供や避難者コミュニティ構築支援、不安への傾聴が行われ始めた。



雪国生活支援（2011 年 11 月～）

初めての雪国生活への不安の声が多数ある事や困難が予想される事から雪国生活支援が行われた。（除雪方法や雪道運転アドバイス、除雪ボランティア等）

支援団体の増加

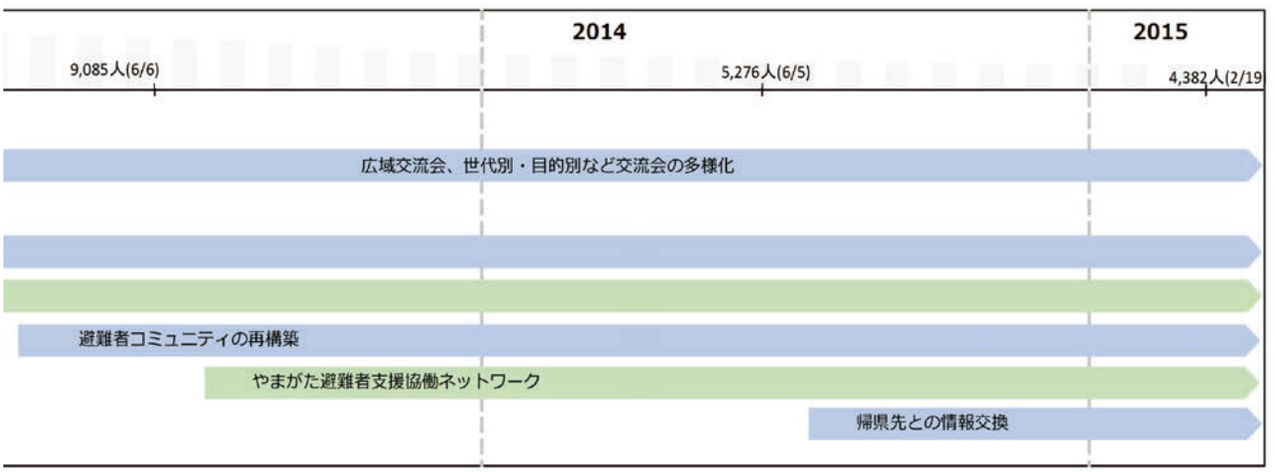
2011 年冬頃になると宮城・岩手の被災地沿岸部のボランティアニーズが減り始め、沿岸部支援を行っていた団体が避難者支援も行うようになる。

また、個人情報を把握する市町村自治体と社会福祉協議会、民間支援団体など官民が連携して避難者支援イベントを開催・広報する動きが増える。

避難者生活支援相談員による戸別訪問を開始
（2012 年 1 月～現在）

避難世帯を戸別訪問し、見守りや相談に応じる避難者生活相談支援事業が社会福祉協議会によって行われ始めた。定期的な連絡会議や研修会には支援団体や当事者団体も参加し、細かな情報共有とスキルアップが行われる。また、相談員を中心とした避難者イベントの開催や、相談員と民間支援団体との連携も多くなった。





避難当事者団体の支援

2012 年頃から県内各地で自治体や民間による常設施設や、定期的な避難者交流会が増加。

避難者が自主的に運営する当事者団体の設立とその団体の運営を後押しする支援も強まる。



やまがた避難者支援協働ネットワーク設立（2013 年８月）

県・市町村自治体・社会福祉協議会・支援団体による意見交換のネットワークが設立され、協働ネットワークのメーリングリストが開設された。

県内４地区で県と地域の行政担当課、民生委員、保健師や社会福祉協議会、民間支援団体が参画した意見交換会が定期的に行われている。

登録団体数　117 団体（2015.1.28 現在）



避難者コミュニティの再構築：（2013 年４月頃～）

避難者の帰県が進み避難者の減少によって避難者交流会や当事者団体の運営が困難になり、避難者コミュニティの再構築や、規模縮小に添った団体運営の後方支援が行われ始めた。

小グループが集まり新しいコミュニティへ

複数の自治体にまたがる広域交流会や、小グループが複数で交流会を開催する動きが出る。また、世代別や避難元別、目的別など、交流会の多様化が進む。

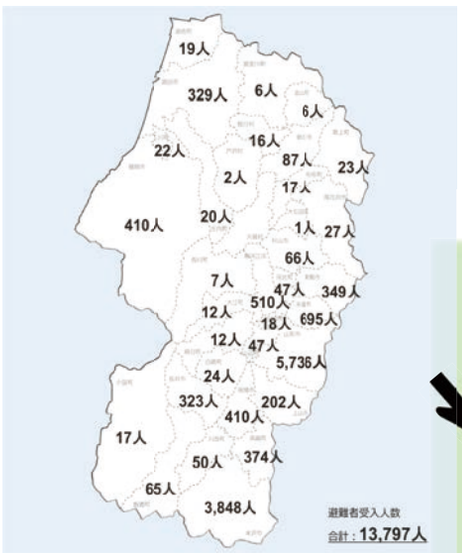


帰県した人のフォロー（2013 年～）

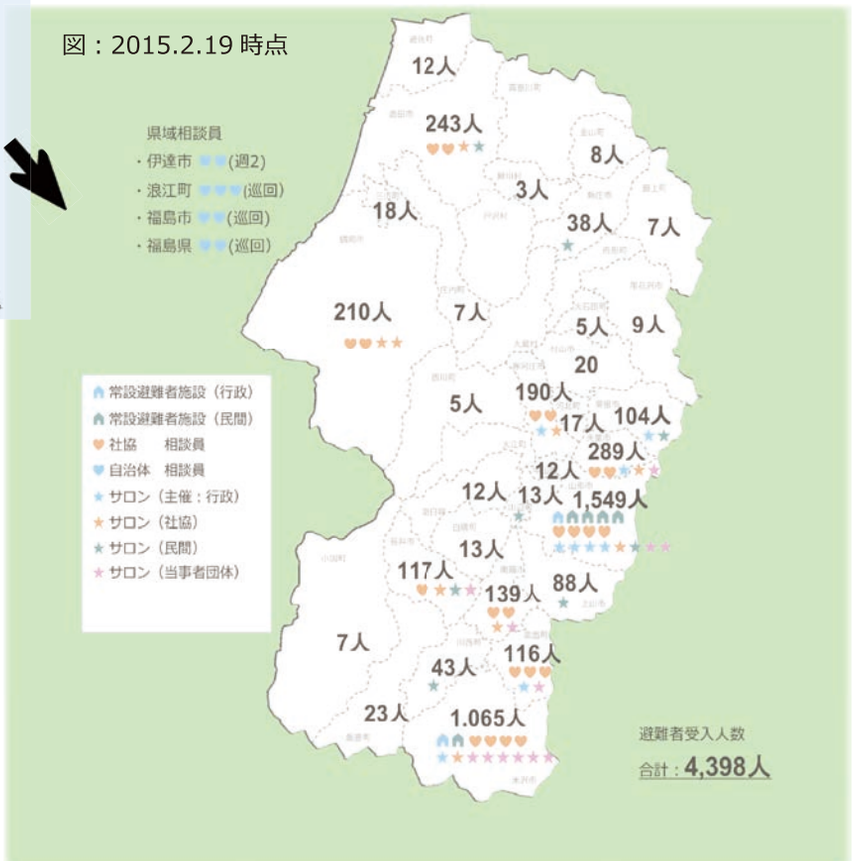
避難者が帰県後に孤立や不安を抱え込む場合があり、帰県した人のネットワークやフォローの必要性が出てきている。一部の支援団体では、宮城県や福島県内の支援団体と情報交換を行い、福島県に訪問して帰県者の傾聴やカウンセリングする活動も行われ始めている。

■市町村別避難者数と支援状況

図：2012.1.26 時点（ピーク時）



図：2015.2.19 時点



図：山形県内避難者サロン種類

市町村名	交流						相談				心のケア	学習
	多世代	子育て世代	高齢世代	父親	避難元別	農業	法律	進学	健康	就労		
山形市	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
上山市		○			○							
天童市	○	○					○		○			
寒河江市	○	○	○			○	○					○
東根市	○						○					
山辺町		○										
新庄市	○											
米沢市	○	○	○				○		○		○	○
長井市		○				○	○		○			
南陽市	○		○				○		○		○	
高畠町	○		○				○		○			
川西町	○											○
鶴岡市	○	○	○	○			○		○		○	
酒田市	○	○					○			○		

保養支援

■保養受入支援活動

原発事故後、放射能による影響があった地域の人々が、休日などを利用して放射能の不安のない地域で過ごす事を“保養”と言い、全国的に様々なプログラムが展開されている。

放射能に対する不安によって外遊びや野外活動が減った子どもたちにとって、保養へ行く事が貴重な外遊びの機会となり、免疫力が上がる、ストレスが軽減されるなど、様々な面での効果が期待されている。

山形県でも十数の団体や企業、行政などが受け入れを行い、安価で泊まれる宿泊場所の提供や、日帰りや宿泊型の自然体験活動などを提供している。

○保養支援活動の種類

1　一軒家や合宿所、旅館などを無料や格安で提供する宿泊所提供型
2　日帰りや１～３泊の自然体験プログラム提供型
3　野外体験施設の提供（福島県内や他県の団体がプログラムを企画。山形では受け入れのサポートを実施）

○保養内容の種類

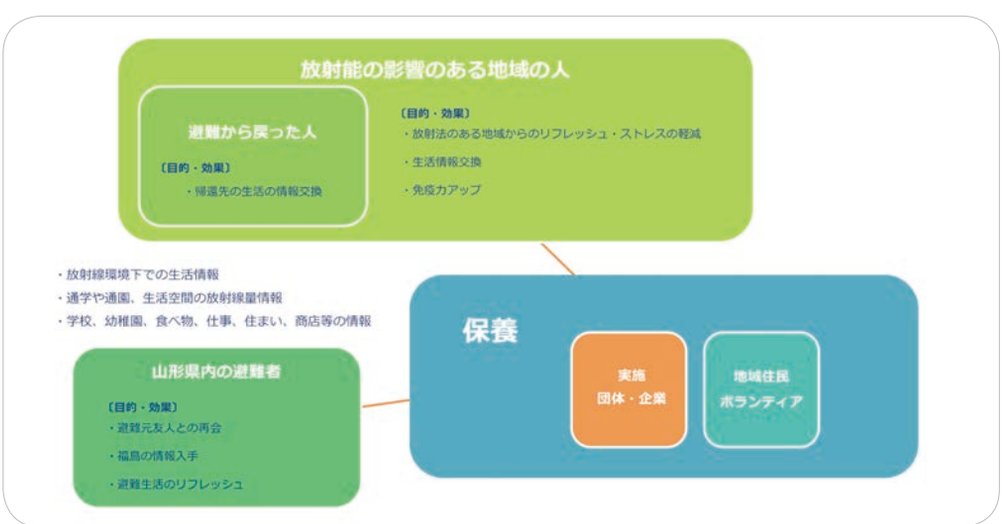
1　自由行動（宿泊や観光の提供のみ）
2　自然遊び体験、農業体験、学習などの活動
3　親の傾聴やストレス軽減を目的としたアロマ、マッサージ、参加者同士の情報交換の場の提供

山形県では、被災県在住者だけでなく、山形県内の避難者が参加することで避難元と避難先の情報交換の場となり、避難を終えて地元へ帰った人と、現在も避難を続ける人の再会の場所にもなっている。

また、プログラム内のイベントに山形県内の親子も参加し、地域住民と合同でイベントを行うなど、保養先との交流を取り入れた活動もある。

全国的には内部被ばくの軽減を目的とした中・長期宿泊型の保養プログラムが多いのに対し、山形県は原発事故の影響を受けた地域と隣接した県であるため、日帰りや短期の宿泊でしか出かけられない家族にとっての貴重な保養場所となっている。





東日本大震災（広域複合災害）

山形県の民間支援の取り組み





庄内地域の支援活動

酒田市・鶴岡市・三川町・庄内町・遊佐町

避難者数：800 人（2013.1.26）、490 人（2015.2.19）

地域内総人口：約 284 千人
隣接県市町村：【新潟県】村上市、【秋田県】由利本荘市、にかほ市
地理特性：日本海沿岸部
主要国道：R7、R112、R47
高速道路：山形自動車道、日本海東北自動車道
主要鉄道：羽越本線、陸羽西線
空港：庄内空港（酒田市・鶴岡市）

（五十音順）

かたづけびと鶴岡

代表：粕谷 政雄　　所在地：鶴岡市

活動期間：2012 年 5 月　～　2013 年 12 月　　延べ活動回数：31 回

活動内容：■　　■避難者支援

2012 年は、石巻市、東松島市にて住宅や寺院のガレキ除去、片付け、草苅り。2013 年は、南相馬市での片付け活動に加え、鶴岡に避難してきた方と一緒に現地に行き、住宅の掃除や引越し手伝い等を実施。
延べ 189 名参加。

鶴岡市ボラセンの被災地支援活動を受け継ぐ形で、参加者有志が任意団体「かたづけびと鶴岡」を立ち上げ、2 ヶ年活動した。移動車両の使用などボラセンより各種の支援を受けた。
また、参加費を徴収して活動費にあてた。

酒田ボラバスネットワーク

代表：小野　仁　　所在地：酒田市

活動期間：2012 年 7 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：31 回

活動内容：■

2012 年七ヶ浜町内、仙台市若林区で主に、田地、畑地内の瓦礫撤去作業	延べ 137 人
2013 年仙台市若林区内で、畑地内の瓦礫撤去、大豆、ねぎ畑の除草	延べ 162 人
2014 年名取市閖上地区で、日和山（地区ｼﾝﾎﾞﾙ）＆宅地の草刈り、清掃	延べ　83 人

コメント：

2011 年酒田市社協主催災害復旧ボランテイア参加経験者 8 人で立上げ、2012 年 7 月より酒田ボラバスとして活動開始し現在に至る。社会福祉協議会よりＨＰ＆センターだよりへ活動の状況や参加募集案内等の掲示、バスの提供支援戴いた事が継続の背景にあります。

生活協同組合共立社

代表：松本 政裕　　所在地：鶴岡市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：140 回

活動内容：■　　■避難者支援

震災直後は被災地・県内避難所への緊急物資支援や炊き出しを行いました。2 年目からは被災地の生協を通した仮設住宅の方への支援や交流、福島の子どもを元気づける「福島の子ども保養プロジェクト」に力を入れています。

コメント：

全国の生協とともに募金活動に取り組み、共立社だけで 3 年で約 2 千 8 百万円を集約しました。直接的な支援とはいえませんが、各地でチャリティバザーや被災地商品の販売を継続しています。今後は被災地訪問にも力を入れ、風化させない取り組みを行います。

チーム飛躍

代表：岩松 美代　　所在地：鶴岡市

活動期間：2014 年 5 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：11 回

活動内容：■避難者支援

月に 1 回「週末寺子屋 in 鶴岡」を開催し、避難者世帯の子ども（小学生～高校生）の学習支援を行っている。夏休みには、短期集中講座も開催した。述べ参加人数は 22 名。

（特活）鶴岡災害ボランティアネットワーク

代表：齋藤 留吉　　所在地：鶴岡市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：50 回

活動内容：■

石巻市　復興イベント支援。石巻湊地区自治会への支援を継続中。

南三陸町　月二回傾聴ボランティア支援。

南三陸町仮設住宅自治会への支援を継続中。

コメント：

現在、当団体のメンバーが南三陸町の仮設住宅に傾聴ボランティアに定期的に訪問しながら、自治会イベントの支援を継続中。また県内の自主防災組織のアドバイスなどを行っている。

（特活）にこっと

代表：片桐 晃子　　所在地：酒田市

活動期間：2011 年 11 月　～　2014 年 3 月　　延べ活動回数：29 回

活動内容：■避難者支援

酒田市へ避難している子育て中の母親たちを対象に、交流お茶会を開催。酒田市での生活や子育てに関する情報提供や避難者同士の話合い、子ども達の遊びの場として述べ 194 組の親子が参加。

コメント：

多くの関係機関のご協力を得ながら、毎月 1 回の交流お茶会を開催して参りましたが活動後半には、入園や就職・転出により参加人数が減少したことにより活動を終了しました。活動にあたり、たくさんの皆様にお心遣いを頂いた事に心より感謝いたします。

認定 NPO 法人 ひらた里山の会

代表：佐藤 忠智　　所在地：酒田市

活動期間：2012 年　～　活動継続中　　延べ活動回数：55 回

活動内容：■

松島町磯崎漁業組合へ大津波で流失したカキ棚材料の孟宗竹を送る復興支援。2012 年 500 本納品 / 竹林ボランティア述べ 22 回 665 人・2013 年 300 本納品 / 竹林ボランティア述べ 20 回 530 人・2014 年 250 本納品 / 竹林ボランティア述べ 13 回 300 人

コメント：

生育過程 2 年以上・9M である程度まっすぐな孟宗竹がカキ棚材となります。カキ棚以外の間伐孟宗竹が 2/3 です。竹炭にして土壌改良剤にしています。山から平地に運び笹枝を払うなど多くのボランティアが必要です。毎年 2 校の小学 5 年生が参加しています。

走れ！！わぁのチャリ

代表：菊池 俊一　　所在地：鶴岡市

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中

活動内容：■　　■避難者支援

市民から無償提供いただいた中古自転車を大学生が修理・整備をし、被災者・避難生活者に 2 年間で 160 台以上を譲渡しました。被災地での家庭菜園育成指導、鶴岡市内小学生と花を育て被災地に贈る活動、震災勉強会の開催等、多岐に渡る活動を行った。

コメント：

中古自転車の修理・譲渡は 2 年間で終えました。その後は、鶴岡で一時保養する被災家族の滞在サポートや、震災記憶の風化防止を目的とした取り組み「○年の CandleNight」の実行委員会（実行部隊）として活動をしています。

フクシマの子どもの未来を守る家

代表：髙橋 祐子　　所在地：鶴岡市

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：通年

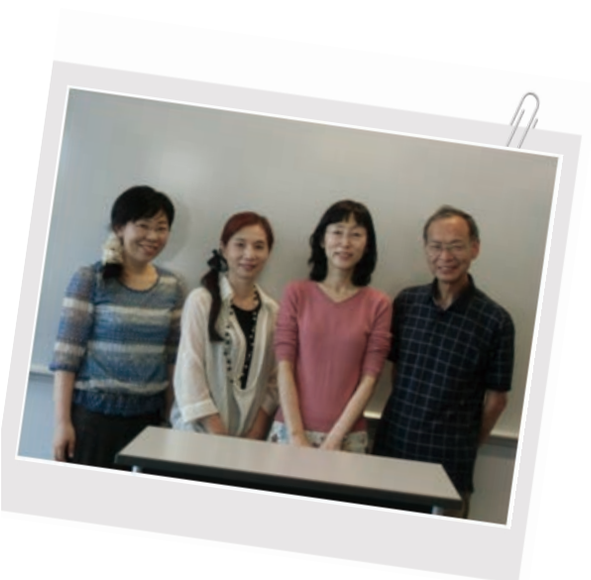
活動内容：■　　■避難者支援

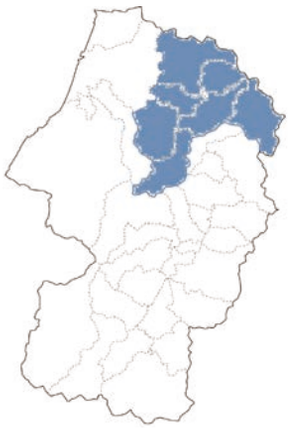
原発事故に遭い、福島県を中心とする高線量地域に暮らす、放射能に苦しむ親子を鶴岡市内に借りた数軒の民家に滞在頂き、親子の一時疎開と保養をサポートする活動。また、鶴岡市に長期避難している方々を「守る家」主催の野外活動等にお誘いしている。

コメント：

いつでも保養に来て頂けるよう、サポーターやボランティアさんで草むしりや布団干し等「家」の維持活動を一年を通じてやっています。地域の方の理解と協力を得られるように、民家周辺住民の方にニュース等を配布しています。







最上地域の支援活動

新庄市・真室川町・金山町・最上町・舟形町・鮭川村・戸沢村・大蔵村

避難者数：157 人（2013.1.26）、56 人（2015.2.19）

地域内総人口：約 80 千人
隣接県市町村：【宮城県】加美町、大崎市
【秋田県】湯沢市、由利本荘市
地理特性：内陸・盆地
主要国道：R47、R13
高速道路：山形自動車道
主要鉄道：奥羽本線（山形新幹線）、陸羽東線、陸羽西線
空港：無

災害支援ネットワーク４７

代表：高橋 保廣　　所在地：新庄市

活動期間：2011 年 5 月　～　2014 年 3 月　　延べ活動回数：40 回以上

活動内容：■　　■避難者支援

宮城県 6 市町にて物資提供や片付け・泥出し作業、避難所や仮設住宅で炊きだし・交流イベントを実施。被災者と支援者が育てたお米「まけるまい！」の頒布とチャリティーを展開。その資金で「東日本大震災を語る会 – 聞く会」を全国で 12 回開催。避難者支援も行った。

コメント：

災害支援ネットワーク４７は新庄・最上地域で活動する個人、ボランティア団体、NPO、企業、行政が集まり結成されたプロジェクト組織。現在は年２回の交流事業を軸に震災を風化させないためのイベントなどをネットワーク農緑のメンバーが引き継いで展開中。

VC(ボランティアセンター) を支援する会

代表：押切 珠喜　　所在地：最上町

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：500 回　通年

活動内容：■

石巻市沢田地区に拠点を設置し、泥出しや瓦礫撤去、漁業支援、仮設住宅でのコミュニティ支援。現在は金華山於、支援活動を展開。観光による復興推進を課題にボランティアツアーを企画。既に 30 以上を催行支援。2015 年からは女川町の観光復興にも着手。

コメント：

石巻市に拠点を設置しているので、現地のニーズがリアルに掌握できる為、活動が多岐に及ぶと共に、復興の度合に併せる形で継続的な支援を続けています。2015 年３月からは JR 女川駅の開通に併せて、金華山と女川を結ぶ観光復興に取り組んでいます。

（特活）ＮＰＯもがみ

代表：沼野　慈　　所在地：新庄市

活動期間：2012 年 4 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：３0 回

活動内容：■避難者支援

しんじょう元氣応援隊プロジェクト（平成 24 年度に通年で実施）、福島県地域づくり総合支援事業（地域協働モデル支援事業）、交流会、情報提供、戸別訪問を実施

コメント：

年に 10 回ほど、市民から提供された農産物を避難世帯に届けています。2012 ～ 2014 年　延べ 30 回

（特活）オープンハウスこんぺいとう　　代表：川又真貴子　　所在地：新庄市

活動期間：2011 年 5 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：48 回

活動内容：■　　■避難者支援

宮城県塩釜市浦戸諸島において震災当初より定期的に炊き出し、泥だし等の活動を行った。現在は、地域再生プロジェクトの委員として活動を行っている。また、新庄市内での居場所作りに有償ボランティアでお手伝いをして頂いている。

コメント：

避難者数が最上地域においては少なくまた、職を持ち生活を再建されている方々が多いために当事業所の居場所作りに来ていただいております。次の災害での同様の活動を行う予定です。協力いただける方はご連絡ください。









村山地域の支援活動

山形市・上山市・天童市・寒河江市・村山市・東根市・尾花沢市、
山辺町・中山町・河北町・西川町・朝日町・大江町・大石田町

避難者数：7,729 人（2013.1.26）、2,313 人（2015.2.19）

地域内総人口：約 551 千人
隣接県市町村：【宮城県】七ヶ宿町、蔵王町、川崎町、仙台太白区、
仙台市青葉区、加美町
地理特性：内陸・盆地
主要国道：R286、R48、R13
高速道路：山形自動車道、東北中央道
主要鉄道：奥羽本線（山形新幹線）、仙山線
空港：山形空港（東根市）

大曽根餅つき保存会

代表：新関 徳次郎　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：130 回

活動内容：■　　■避難者支援

・被災 3 県と山形県内にて炊きだし、出張餅つき 述べ 130 回

・破損し使用していない臼や杵を譲り受け、修復し希望する被災自治会や団体に寄贈しています。

コメント：

炊きだしは続けておりますが、2014 年度より材料費は頂くようにしています。

(一社) 山形県被災者連携支援センター

代表：大谷 哲範　　所在地：山形市

活動期間：2013 年 11 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：200 回

活動内容：■避難者支援

2014 年度より、復興庁の「自主避難者等への情報支援事業」を受諾し、情報提供、相談会、交流会、相談窓口運営などの活動をしています。

コメント：

事業を通して、全国の避難者支援団体とのネットワーク作りや、意見、情報交換なども行っています。

NPO「化石の森」のかい

代表：堀江 光夫　　所在地：上山市

活動期間：2011 年 5 月　～　2014 年 3 月　　延べ活動回数：３0 回

活動内容：■　　■避難者支援

避難元に戻られる方と同行し引越手伝い。事前の屋内掃除。泥出し作業。宮城県の被災地の方や南相馬市から避難する方を招き芋煮会やサクランボ狩りなどの交流会を開催した。上山市に避難する方をサクランボ狩りに招待した。

コメント：

山形県内で生活する南相馬市からの避難者親睦会「南相馬親睦会」の構成団体代表として「平成 25 年度 ふるさとふくしま帰還支援事業　南相馬・山形絆事業」を実施した。

NPO 毎週末山形

代表：佐藤洋　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：25 回

活動内容：■　　■避難者支援

・福島県内にて、山形県内の保養・移住に関する資源を紹介する相談会に参加。

・パルシステム生活共同組合連合会との提携による週末保養企画を定期開催。

・避難者の自助グループ同士の交流企画などを実施し、バックアップをする。

コメント：

あらゆる活動を通じて、東日本大震災の影響による子どもの健康被害について不安を持つ家族達を支援しています。主に、交流企画・週末保養企画・山形県内・福島県内シーズの連携の斡旋などを活動内容としています。

キャンドルリンクネットワーク

代表：安藤 竜二　　所在地：朝日町

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：60 回

活動内容：■　　■避難者支援

被災地に関わるキャンドル関連イベントの開催や協力。クリスマスイブに灯しあう双子キャンドルＰＪで被災地各地の 3000 人の子どもに送った他、被災地 15 ヶ所でキャンドル作り会、亘理・七ヶ浜・山形追悼行事、亘理苺キャンドル・石巻雄勝石燭台商品化協力

コメント：

山形・宮城・福島のキャンドル好きな仲間達で、平成 7 年阪神淡路大震災時より活動してきた。キャンドルは、癒しや悼むために必要な物なので、これからも必要に応じて続けていこうと思っている。

※双子キャンドルの主旨は 1 本は誰かのため 1 本は自分のため。

子どもの未来を守る会やまがた

代表：佐藤あづさ　　所在地：村山市

活動期間：2013 年 8 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：約 60 回

活動内容：■避難者支援

子どもたちを放射能から守る活動の一環として母子避難者支援を行っています。過去にはスキーウェアのお譲り会や映画の上映会を行いました。現在継続中の支援はマクロビオティック講座や布なぷきん講座、ボランティア託児などを行っています。





しずくプロジェクト

代表：新田 公孝　　所在地：寒河江市

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：10 回

活動内容：■

東日本大震災で被災された方々を山形の県産酒で応援するプロジェクトです。活動開始より 2015 年 1 月までの時点で約 6,500 本のお酒を販売致しました。商品売り上げの一部を日本赤十字と気仙沼教育委員会への奨学金として寄付しています。

コメント：

少しずつ、無理なく、永く続けられる支援をコンセプトに、『普段着の応援』として活動してまいりました。これからもより多くの方にご賛同頂けるよう、地域の方たちと共に山形から被災地支援を続けてまいります。

主幹団体：山形県酒類卸株式会社

自然と人間を学ぶ会

代表：佐藤 清道　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：複数回

活動内容：■　　■避難者支援

被災地に数度訪ねての奉仕活動。畑作業と作物栽培・収穫。子ども遊びやハイキング。

コメント：

歴史や自然の営みを学ぶ活動を通じて、避難者の方とも精神的につながりあえるような支援を目的としています。会員数　約 60 名。

週末 Stay ＠やまがたのお寺

代表：菅生 和典　　所在地：山形市

活動期間：2012 年 2 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：63 回・245 名

活動内容：■

お寺の和室を短期保養として利用していただいています。週末に真言大谷派（浄土真宗）東本願寺の地方事務所である山形教務所（お寺）の部屋を無償でお借りしています。福島県在住の 1 家族（又は 1 グループ）を対象とし、3 年間で延べ 63 家族 245 名宿泊されました。

コメント：

お寺は山形市の中心部に位置し、近隣には公園や子ども館、七日町商店街、産直の野菜市などもあります。週末のみの活動で、受け入れ規模は小さいのですが、遠くの保養に行くのが大変な小さな子ども連れのご家族向けに、引き続き活動していきたいと思います。

全国有機農法連絡会

代表：米山　正　　所在地：天童市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：30 回

活動内容：■　　■避難者支援

震災直後、天童市社協主催の福島からの避難者への炊き出し、当会生産者（仙台市）への支援活動、仙台市周辺仮設住宅への物資支援活動、福島母子避難者への支援活動。

コメント：

☆全国組織の産直団体のため会員からの義援金に全てを頼った活動です。震災後、会の運営も低下し（東北ということで新しい会員が増えない）自力での支援の力が及ばないのが現状です。

だがしや楽校倶楽部

代表：東海林 昭浩　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 11 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：50 回以上

活動内容：■避難者支援

山形市避難者交流支援センターとの協働で、交流を目的とした「だがしや楽校」「大人のだがしや楽校」を開催している。

コメント：

小学生から 70 歳代の幅広い年齢層のボランティアスタッフが活躍しています。

チームプレデイ

代表：菊地 悦郎　　所在地：山形市

活動期間：2013 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：10 回

活動内容：■　　■避難者支援

石巻市開成地区の仮設住宅住む子ども達への学習支援を中心に活動。参加者延 100 名、月 1 回のペースで訪問。仮設住宅の集会所において、子ども達の宿題を一緒にしたり、一緒に遊びまた昼食を一緒に作ったりする中で交流を深めている。

コメント：

子ども達が持ってくる宿題を見てあげたり、長期休業中の宿題や自由研究や工作を見てあげている。
また「面白理科実験」等で一緒に作る楽しさを体験したり、外遊びを通して交流を深めている。さらに保護者との茶話会を通して現状を聞き次回に活かしている。

寺子屋こども大学

代表：松尾 剛次　　所在地：山形市

活動期間：2014 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：18 回

活動内容：■避難者支援

福島原発による避難児童に対し、主に大学生スタッフによって学習支援や外遊びを月２回、日曜日の午前中に山形市内で実施している。保護者に対しても地域の中で孤立しないよう保護者会を開催、芋煮会などの交流会も行っている。

コメント：

今期の事業は３月末で終了しますが、４月以降も引き続き継続して活動予定です。ネットワークの皆様には色々とお世話になり、ありがとうございました。今後の活動においても告知等のご協力宜しくお願い致します。





東北復興支援機構 (東北芸術工科大学)　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 5 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：80 回

活動内容：■　　■避難者支援

宮城県沿岸部へのボランティアバスを 2011 年 5 月～ 2013 年 1 月まで 47 回実施し、延べ 1,880 名の学生と市民が参加。福島から転居した家族同士の交流を目的とした「ピクニックイベント」や「ものづくりワークショップ」と福島県在住の家族を対象にした、夏休みの林間学校「キッズアートキャンプ山形」を継続開催している。

コメント：

活動内容に明記した以外にも、山形市出身のアーティストによる復興イベントや展覧会、また、地元新聞社と協力し、震災の体験を語り継ぐ絵本「東北未来絵本」などを制作しています。活動の詳細については HP をご覧ください。東北復興支援機構（東北芸術工科大学）HP：http://blog.tuad.ac.jp/trso/

TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT　　代表：榎森 舜田　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：115 回

活動内容：■　　■避難者支援

東日本大震災発災後約 1 年間は災害復旧支援として炊き出しや復旧作業を行いました。なお、発災時には南陽市等における災害復旧支援も行いました。翌年からは米沢にて子供の遊び場支援として被災地や避難地からの保養の受け入れを行っております。

コメント：

いつもお世話になっております。東日本大震災の支援も継続しつつ、県内または隣県にて発災時には、何らかの形でお手伝いできればと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

（特活）グラウンドワーク寒河江　　代表：佐藤 順一　　所在地：寒河江市

活動期間：2013 年 11 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：150 回

活動内容：■

気仙沼市本吉町において復興支援の拠点となる事務所・宿舎を設置し、2 年間に渡って事務局員を常駐させ津谷大沢区の復興に向けた活動を行った。特に地元住民及び被災者と作り上た震災復興計画書は「他地区の見本とすべき計画書」との評価を菅原気仙沼市長より頂いた。

震災発生直後には気仙沼市全域において炊きだしや支援物資の配給を行ったり、3 回に渡り大型バスで被災者を寒河江に招待しホームステイによる心のケアと交流を実施し、今も個々にお付き合いが続いている。

2014 年は鯉のぼりや慈恩寺の稚児桜の植樹などを行っている。

（特活）コミュラボ地域生活研究所　　代表：岡崎 卓弥　　所在地：東根市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：150 回

活動内容：■　　■避難者支援

コメント：

コミュニティ構築支援、今後あり得る震災に備えてのボランティアリーダーの育成などに力を入れています。サポートさせて頂く皆様には心から寄り添い共に考える事が私たちの一番の目標とする活動です。

（特活）子ども支援フェイスブックプロジェクト　代表：平尾　清　所在地：山形市

活動期間：2011 年 12 月　～　活動継続中　延べ活動回数：155 回

活動内容：■　■避難者支援

避難者向けに、ママのためのお話会 (2012 年度・6 回)、週末寺子屋～子ども大学～ (2014 年度・山形・鶴岡・米沢・約 143 回)、現在は、絵本読み聞かせ等の場を通じて避難者・塩釜仮設住宅にお住いの方の心のケアを目指した活動を行っている。

コメント：

上記の他に、山形の子ども達対象にした石巻スタディーツアーや、「子ども未来創生計画」と題し、宮城・福島・山形の子ども達の声を社会に届けるための「子ども未来白書」作りなど、その都度必要な活動を他団体と連携しながら活動しています。

（特活）小さな天文学者の会　代表：柴田 晋平　所在地：山形市

活動期間：2012 年 7 月　～　活動継続中　延べ活動回数：10 回

活動内容：■　■避難者支援

山形市にて、避難者への天体望遠鏡工作や天文工作の提供。

朝日町にて、福島からの週末保養者への天体望遠鏡工作と天体観望会の提供。

大船渡市にて、写真展や太陽・天体観望会、天文工作等の提供。

コメント：

当初は山形市へ避難されているみなさんへの支援活動を行いました。今後も復興イベント等への天体観望会や天文工作の提供を考えています。お手伝いできることがありましたら、ご連絡ください。

（特活）やまがた育児サークルランド　代表：野口比呂美　所在地：山形市

活動期間：2011 年 7 月　～　活動継続中　延べ活動回数：通年

活動内容：■避難者支援

2013 度末の実績は避難家庭支援の子育てサロンを山形市 142 回、米沢市 97 回開催。当事者サークル立ち上げとその支援 4 団体 145 回。常設の子育てひろばを通年で 2 か所開設。臨床心理士相談会 81 回。支援者の交流と研修会 3 回。5 都県でサロン支援、他。

コメント：

山形県内で地域に根差した子育て支援をしている NPO 団体です (1998 年発足)。子育て当事者の視点を大切に活動してきましたが、震災後避難してきた子育て家庭に対してプロジェクトとして支援活動を続けています。





（特活）山形ユナイテッドアスリートクラブ　代表：後藤 誠一　所在地：山形市

活動期間：2012 年 10 月　～　活動継続中　延べ活動回数：230 回

活動内容：■避難者支援

山形市と置賜地区で週一回ずつサッカー教室。山形市で毎週土曜日に学習支援教室。

不定期でスポーツ教室。

コメント：

サッカー教室は赤い羽根共同募金で半年分助成していただき、学習支援教室はボランティアで活動中。来年度の活動は未定。

にじ色キャンパス　代表：荒木 三香　所在地：山形市

活動期間：2013 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：15 回

活動内容：■避難者支援

山形市内を中心に（他、県内あり）避難母子へ自主開催イベントとして「子どもアートセラピー」開催、又、他団体での「親子アートセラピー」や、看護協会主催まちの保健室で「親子カラーセミナー」開催。現在、県のストレスケア事業（避難母子）業務委託でママ向け、子ども向け各 3 回継続講座開催中。

コメント：

約 2 年前の春、復興ボラセンに伺って以来、個人での支援からスタートし、任意団体を立上げ活動し単発の自主開催イベントや他団体のイベント講師として参加しつつ、現在は県の業務委託の中で親子別の各講座を開き、避難者の方にも有給でスタッフ参加して頂き、大変に喜んで頂いてます。

日本ヨーガ療法学会認定療法士会山形支部　代表：髙橋 秀一　所在地：上山市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：72 回

活動内容：■避難者支援

米沢市内において、主に福島県内よりの自主避難者の皆さんに、ヨーガ療法を行っております。参加者　延べ 229 名。おいで支援センターさん経由にて、会場となる公民館を予約いただき、原則として月 2 回継続しております。自宅学習用 DVD の無料配布も実施。

コメント：

米沢市内での避難者も、震災直後から約 1/4 に減ってきています。避難生活を続けている方々には、より一層の支援が必要だと考えられます。避難者支援センター及び社会福祉協議会との協力を得ながら今後とも活動を継続していきたいと思っています。

認定 NPO 法人 ＩＶＹ　代表：枝松 直樹　所在地：山形市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中

活動内容：■　■避難者支援

緊急物資支援、炊き出しを泉南地域、東松島市、石巻市、気仙沼市で実施。臨時雇用、就労支援を石巻市、気仙沼市で実施。保育園の人件費補填、会計指導、運営指導を気仙沼市の 2 保育園で実施。母子避難者専用保育園設立、運営、保育料助成金事業を山形市で実施。

コメント：

震災支援として、状況や要望に応じて柔軟な活動を実施してきました。また、被災者の自立を目指した活動をしております。

認定 NPO 法人
山形国際ドキュメンタリー映画祭　代表：大久保 義彦　所在地：山形市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：150 回以上

活動内容：■　■避難者支援

避難所、仮設住宅、被災地のホール、小学校などでの出張上映会や子ども映画ワークショップ参加者 延べ 14,587 人。青森県沿岸部、岩手県沿岸部、宮城県、福島県、山形県などで実施した。
（山形県映画センターと協同実施）

発災直後より山形県映画センターと協同で活動を開始。2011 年 6 月頃から全国の映画関係者の支援組織（シネマエール東北）に合流して活動を行っている。2015 年も引き続き、本活動を続けていく方針である。

認定 NPO 法人 山形創造 NPO 支援ネットワーク　代表：須藤 路子　所在地：山形市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：70 回

活動内容：■避難者支援

山形市へ避難してこられた方々へのお茶会、果樹の収穫体験、温泉でのくつろぎの場の提供等を実施。また、これら事業を通して、県 NPO 支援センターで NPO 活動をしている方、町内会等地域の方々との交流も同時に行っている。

コメント：

発災した年以来、日赤の助成金、稲盛財団の寄付金、福島県の事業費等を活用して継続して事業を実施してきました。参加された避難者の方々との絆もでき、これからも同じ東北人として支援を行いたいと考えています。

ハチドリー滴の会　代表：八矢 昭司　所在地：河北町

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：60 回

活動内容：■　■避難者支援

気仙沼市、石巻市他で瓦礫撤去、炊きだし、物資提供。団体引率参加　約 120 名。福島、宮城から避難生活者への交流イベント、学習や体験活動の開催、支援物資提供

コメント：

東日本大震災を機に活動を開始。被災地での支援活動のほか、避難者への生活支援。仮設住宅でのイベント支援とコーディネート。震災学習団体の引率と現地での啓発活動。避難者のニーズに応じ多様な体験活動、支援活動を実施中で、協力者募っています。





ふれあい交流会ＹＹＲ

（Y: やまがたで Y: ゆったり親子で R: リフレッシュ！）　代表：藤井 朋行　所在地：山形市

活動期間：2012 年 8 月　～　活動継続中　延べ活動回数：６回

活動内容：■

福島県在住の 7 家族 30 名程を対象とし、年２回の長期休暇中に２泊３日の短期保養を実施しております。参加された方々との交流を通し、この取り組みを継続していくことこそが、共に生きたいという願いを具現化していくことになると思ってます。

コメント：

保養については、被災地をはじめとした各方面から多種多様な意見をいただいてはおりますが、保養を希望される方は今だに多くおられる実態があります。私たちは、希望者がいなくなるまで活動を続ける所存です。

ボランテイアサークル日曜奉仕団　代表：早坂　信一　所在地：寒河江市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　延べ活動回数：多数

活動内容：■　■避難者支援

2011 年に石巻市に泥かきなどの活動を始め、2011 年 12 月からは市民に公募して岩手県陸前高田市へ月に一度ボランティアバスの運行やコーディネートを行った。（26 年 12 月終了）避難者支援では寒河江市の当事者サークルの資金・運営アドバイスなどで関わる。

コメント：

2015 年以降は支援活動のノウハウを元に、地域との連携や活性化のための活動へシフトしていく方針。特に被災地と山形の架け橋となり、地域間交流の活性化を図りたいと考えている。

山形県映画センター　代表：長澤 裕二　所在地：山形市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：150 回以上

活動内容：■　■避難者支援

山形国際ドキュメンタリー映画祭と協同。避難所、仮設住宅、被災地のホール、小学校などでの上映会やワークショップ 参加者 延べ 14,587 人。
青森県沿岸部、岩手県沿岸部、宮城県、福島県、山形県などで実施した。

コメント：

発震直後は、ドキュメタリー映画祭と協同で活動、６月ごろから全国の映画関係者の支援組織（シネマエール東北プロジェクト）を立ち上り、合流して活動を続けています。私たちは今年も活動を継続します。可能な限り対応致しますのでご連絡ください。

山形県環境保全協議会　所在地：山形市

活動期間：2011 年 9 月　～　活動継続中　延べ活動回数：4 回

活動内容：■

2011 年 9 月 宮城県塩竈市・桂島、民家清掃、泥だし、家財運び（63 名）。2012 年 6 月 宮城県寒風沢、民家清掃、除草、家財道具運び、海岸清掃（46 名）。2013 年 6 月除草、民家の清掃、（51 名）。 2014 年 6 月民家清掃、除草作業（37 名）。述べ 194 名

コメント：

2011 年度より年に一度活動を行っている。近年は寒風沢の島民の方とのつながりを大事に、高齢者が多いとのことで民家の清掃、除草作業、公共施設の除草作業を行っております。

やまがた気仙沼会

代表：武田　満　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 10 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：4 回

活動内容：■　　■避難者支援

「気仙沼さんま祭り in 山形」の開催運営 (http://with-kesennuma.net/)　気仙沼出身者が故郷の復興と震災の風化防止を願って、9 月の旬の時期に三陸沖で捕れたサンマを炭火で焼き、市民に無料で提供します。

コメント：

毎年 2,000 人ほどの動員数と 100 社 100 名以上協賛、実行委員 10 名弱と、100 人以上のボランティアの協力を得て 4 回開催してきました。震災の風化を食い止める為、また秋の山形の風物詩となる様、継続して行います。（気仙沼関係者の懇親も目的です。）

やまがた絆の架け橋ネットワーク

代表：大谷 哲範　　所在地：山形市

活動期間：2013 年 4 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：300 回

活動内容：■　　■避難者支援

前身は、2012 年度の「新しい公共」で山形県との協議会形式でスタートしました。2013 年度からの活動は、山形県の地域資源を活用した保養活動と全国規模のネットワーク作りに重点を置いています。

コメント：

2014 年度、山形県より「公益大賞」を受賞しました。

山形元気応援団　山形もてなし隊

代表：原田 陽子　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 3 月　～　2012 年 10 月　　延べ活動回数：256 回

活動内容：■避難者支援

乳幼児と妊産婦の避難所である「ＪＡ協同の杜研修所」（山形市）で発災当初から、「協同の杜保育園」を立ち上げ、1 年間サポートボランティア 13 名が子育ての経験を活かし避難者 19 家族 75 人を母の悩みを聞いたり子どもと遊んだりしサポートしてきました。

コメント：

2011 年 3 月 JA 中央会よりボランティア派遣の相談があり、3 日後に派遣。平成 24 年 3 月避難所閉所後、ボランティアがさくらんぼ狩りや芋煮会を自主企画し、県外や山形市内に移り住んだ避難者家族（祖父母も参加）が再会を喜んでくれました。





山形の防災を考える会（旧山形防災教育センター）　代表：遠藤 正則　所在地：山形市

活動期間：2012 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：180 回

活動内容：■　■避難者支援

岩手・宮城・福島・山形県にて、支援団体や自治会に向け助成金案内や会計補助を行う。山形県内に避難する方に、みなし仮設住宅の住み替え助言や定期的な訪問を行い安否確認を行う。親子撮影会や写真展、雪遊び交流会を実施する。「南相馬親睦会」事務局。

コメント：

帰還により不要となる救援家電を譲り受け、新規の避難世帯や分離避難世帯、保養団体に提供し再利用する「善意の循環活動」を行う。避難者は報道やネットでの支援活動 PR を拒む方が多く、支援の必要性の PR や助成金、寄付金を獲得しにくく苦労しています。

山形大学有志災害ボランティアチーム「チーム山大」　代表：福島 真司　所在地：山形市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：約 300 回以上

活動内容：■

宮城県仙台市での震災復興支援活動（瓦礫撤去、公共施設等の復旧）【終了】、宮城県本吉郡志津川町仮設住宅での炊き出し【終了】、宮城県仙台市の被災家庭を中心とする子供の学習支援活動【終了】、宮城県塩竈市浦戸諸島における復興支援活動【継続】

コメント：

継続中の浦戸諸島では、震災当初は瓦礫撤去、現在は復興連絡協議会の開催（現在 33 回）、観光再生ツアーの継続開催（現在 12 回）、山形市東部地区住民と協働した山形市での支援事業、現地漁協・役職者の離島振興事例視察（現在 3 回）等を継続実施している。

山形つながるプロジェクト　代表：徳永 美嘉　所在地：山形市

活動期間：2012 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：およそ 300 回

活動内容：■避難者支援

◇山形県小国町での保養実施

◇山形県内避難者のための料理サロン実施

◇山形県内避難者の交流のためのイベント実施

コメント：

参加の機会の少ない、小さいお子さんを持つ家族を対象にしたファミリー保養を、3 年継続した。その他、子育て中の母子避難者を対象にしたプログラムを中心に企画実施している。

山形避難者母の会　代表：中村 美紀　所在地：山形市

活動期間：2011 年 10 月　～　活動継続中　延べ活動回数：750 回

活動内容：■避難者支援

主に福島県内から山形県内へ避難してきた母子避難・自主避難者で構成され、その当事者に特化した支援を行っている。避難母子のためのサロン活動、託児支援、避難者のストレスケア、情報支援活動、就労支援、子どもたちのための保養支援、学習支援等。

コメント：

発災当時より山形県内の皆様には多大なるご支援と温かい心をたくさん頂き、避難当事者の一人として心より御礼申し上げます。まだまだ福島の問題は継続中です。共に寄りそい、共に考えて頂けましたら幸いです。

りとる福島

代表：神野・高橋・藤田　所在地：山形市

活動期間：2011 年 10 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：82 回

活動内容：■避難者支援

・避難者交流企画　まま TIME の開催

・避難期間中に妊娠出産した方の産前産後サポートを実施

・2014 年 5 月、10 月に田植え保養と稲刈り保養を開催

コメント：

福島県から山形県へ避難している母親が中心となって活動をしています。避難者のおかれている状況やニーズなど避難者の生の声を聴いて、助け合いながら活動をすすめています。

ご協力いただける方はご連絡ください。

緑水の森支援活動

代表：大谷 哲範　　所在地：山形市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：14,000 回以上

活動内容：■　　■避難者支援

カウンセラー・セラピスト等、対人支援の専門家による団体です。

発災直後からの活動で、訪問や電話、メール、SNS 等でのカウンセリング件数は、14,000 件超です。

コメント：

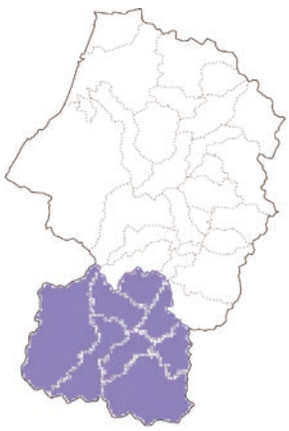
（一社）日本ソーシャルセラピストアカデミー（ＪＡＳＴ）に活動を移行中で、こちらでは主にカウンセラー等の人材育成を行っています。











置賜地域の支援活動

米沢市・長井市・南陽市・高畠町・川西町・小国町・白鷹町・飯豊町

避難者数：5,111 人（2013.1.26）、1,523 人（2015.2.19）

地域内総人口：約 219 千人
隣接県市町村：【新潟県】村上市、関川村、新発田市、阿賀町
【宮城県】七ヶ宿町
地理特性：内陸・盆地
主要国道：R113、R121、R13
高速道路：米沢南陽道路
主要鉄道：奥羽本線（山形新幹線）
空港：無

おきたまラジオＮＰＯセンター

代表：山口 充夫　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：400 回以上

活動内容：■　　■避難者支援

・「だがしや楽校」では被災地及び避難者へ玩具・本の提供、石巻等での開催協力
・「お茶会」「ままカフェサロン」など避難者支援活動・事業への協力及び記録
・山形県内及び全国の支援者・避難者・関係者間のコーディネート活動（中間支援）

コメント：

米沢では避難者支援センターおいでを中心にした支援者同士のつながりがあります。そのため、とても活動しやすい環境になっており、感謝です。自然体での活動をモットーにしています。それで活動は長続きし、本質も見失いません。

おきたまネットワークサポートセンター

代表：宮原 博通　　所在地：川西町

活動期間：2014 年 6 月　～　活動継続中

活動内容：■避難者支援

・3 市 5 町のスポーツクラブでスポーツクラブイベント、健康づくりの受入れ
・3 市 5 町のＮＰＯに避難者相談窓口の設置
・避難者、被災地支援チャリティコンサートの開催

きっさ万世

代表：澤田美恵子　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 4 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：172 回

活動内容：■避難者支援

米沢市に避難している人に対し集まる場所をと言う声で、万世コミセンの室を借りお茶会を開催（2011 年 5 月末から）、毎週水曜日継続中。

コメント：

自由に出入りが出来、地元の人とボランティアが一緒になり、情報収集したり話を聞いたり。お茶・茶菓子は持ち寄りで、支援センターおいで、山口充夫さん、スマイルハウス、チーム置賜、看護協会等たくさんのボランティア協力でやっています。

ＫＭＡミュージカルアカデミー

代表：加藤マチャアキ　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 6 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：85 回

活動内容：■避難者支援

米沢市万世コミュニティーセンターで第 2、4 水曜日 午前 10 時 30 分からお昼まで、福島から避難しているお母さん達にダンスエクササイズを指導しています。クリスマスの近いレッスン日は、私がクリスマスライブをします。食事会もたまにします。

コメント：

体を動かすことで、日ごろのストレスを発散させる目的で始めた活動も、みなさまのご支援のおかげで長く続けてこれました。これからも地道に活動して参ります。これからもよろしくお願いします。

子育てサロン「ももりん」

代表：照井 美花　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 9 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：150 回

活動内容：■避難者支援

米沢市すこやかセンターをおかりして、福島の母子避難者を対象に子ども達と母親の心とあそびの居場所づくりを目的に活動しています。親子で季節の制作や外あそび、リズムあそび、手作りおやつ作り、お茶会など、楽しんでいます。

コメント：

米沢市に来て何もわからない頃から、たくさんの方々に支援していただき、たち上げから現在までなんとか活動を継続することができてきます。心から、感謝申し上げます。ありがとうございました。

生活クラブやまがた生活協同組合

代表：髙橋　尚　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中

活動内容：■　　■避難者支援

◇避難者支援「10 円バザー」（2011 年 6 月からスタート、2014 年 11 月まで 22 回実施）米沢市

◇避難者支援「10 円バザー」（2012 年 6 月からスタート、2013 年 11 月まで 4 回実施）　山形市

◇東日本大震災追悼・復興祈念事業開催（12/3.11、13/3.11、14/3.11）実行委員会メンバー

◆被災地（石巻市）訪問（災禍を風化させない取り組み）、2012 年 4 月、3 回にわたり 129 名参加

◆被災地支援「出張 100 円バザー」（2012 年 6 月から 2013 年 11 月まで 5 回実施）東松島市仮設住宅

◇避難者と交流カフェ（2012 年 6 月から 12 まで 5 回開催）山形市

コメント：2015 年度は被災地訪問を予定

玉庭ふるさと総合センター活用委員会

代表：楠田 博雄　　所在地：川西町

活動期間：活動継続中　　延べ活動回数：30 回

活動内容：■　　■避難者支援

施設利用　週末保養（キャンプ、自然体験、餅つき、紙ヒコーキ大会、蕎麦打ち、雪遊び、他）

他団体間の交流

コメント：

３．１１以後、毎年利用が増えており、2014 年度は年間 1,000 人位の方が利用しています。

（特活）アクションパーク米沢　代表：寒河江 洋介　所在地：米沢市

活動期間：2012 年 8 月　～　活動継続中　延べ活動回数：22 回

活動内容：■避難者支援

フリークライミング、BMX、スケートボードに特化した東北最大級の屋内施設で、各競技の体験学習会を実施。屋外で遊べない子供と親に安らぎの空間を提供。延べ参加人数は 500 名を越えました。

コメント：

2012 年夏より 22 回に渡り実施。放射能汚染により屋外で遊べない福島の子供達に、のびのびと活動できる広い空間を提供しています。未体験のインドア競技に触れてもらうことで、持続可能となる夢を与え、積極性を養うことを目標に奮闘中です。

（特活）青空保育たけの子　代表：辺見 妙子　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 10 月　～　活動継続中　延べ活動回数：800 回

活動内容：■　■避難者支援

平日の自然体験活動、週末保養、保養所としての宿泊、主に福島市内から米沢市の活動場所までの無料送迎バスの運行、無料親子英会話、親子育児サークル、冒険遊び場を実施し、リフレッシュする機会を提供。

コメント：

当初は主に幼児を対象としてきましたが、現在は年齢層を広くしすべての子どもを対象に活動をしています。今後はさらに、子どもを中心にした " 地域福祉 " を考え、地域とどう関わり、互いに協働できるかを話し合い、活動をしていきたいと思っています。

（特活）おいたまサロン 避難者交流サロンふわっと　代表：竹田　仁　所在地：米沢市

活動期間：2012 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：通年

活動内容：■避難者支援

米沢市近郊に母子避難している、福島県の方のためのフリースペース。現在は全国の支援者や支援物資の窓口となり、専門家による相談会の開催や野菜等の共同購入、小中学生への学習支援や季節のイベント（クリスマス会や芋煮会など）の開催等を行っています。

コメント：

ふわっとでは、大人がゆっくりおしゃべりをして子どもはキッズスペースでのびのび遊べる場所になるよう目指しています。気軽に避難者の方にお越しいただけるように、居心地の良い空間作りを心がけていきます。

（特活）きらりよしじまネットワーク　代表：星野 廣志　所在地：川西町

活動期間：2014 年 4 月　～　活動継続中　延べ活動回数：26 回

活動内容：■避難者支援

・スポーツクラブでのイベント参加や健康づくり
・地域の交流の場への参加
・相談窓口の設置

（特活）スマイルハウス

代表：草苅 美紀　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：200 回位

活動内容：■避難者支援

避難者向け市内案内バスツアー、お茶会における遊びの広場開催、イベント・講座無料託児、訪問見守り託児、育児・生活用品の配布

コメント：

当初避難してこられ場所を教えるために市内病院や遊び場広場など教えるツアーを 4 回実施した。その他の活動は継続して行っている。

（特活）レインボープラン市民農場

代表：竹田 義一　　所在地：長井市

活動期間：2011 年 12 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：3 年 2 ヶ月（通年）

活動内容：■避難者支援

当法人が農地を提供し、避難者 2 名を雇用。ここで市内の避難者と市民ボランティアとが農作業を通して交流、経済的支援と避難者の心身のサポート等を行った。収穫した農産物は、主に支援者や被災地に販売した。農作業の他に年間十数回の交流イベントを行った。

コメント：

「レインボープラン絆循環プロジェクト」と題し、農をテーマに被災地と避難者を繋ぐ活動で市民参加も多く、活動で生まれた復興支援酒「甦る」は、多方面で話題となり、醸造は継続中。
まちづくりへの波及効果も大、マスコミなどから注目を浴びた。人件費確保が課題。

7 代先の子どもたちのために行動する会「マゼンダ福島こども基金」

代表：粟野 路子　　所在地：米沢市

活動期間：2011 年 5 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：28 回

活動内容：■避難者支援

コメント：

3．11 以降、募金したお金がどこへ行くのか不審に感じる人が少なくなく、私もその 1 人でした。そこで全国の方の「思い」を直接福島のこどもたちへつなぐ中継基地として「マゼンダ福島こども基金」を立ち上げました。小さな活動ですが続けています。

南陽市避難者自助グループ　”ももなん”

代表：菅原 清子　　所在地：南陽市

活動期間：2013 年 4 月　～　2015 年 3 月　　延べ活動回数：約 50 回

活動内容：■避難者支援

2013 年度は、南陽市健康長寿センターに於いて、毎週水曜日にお茶会を開催。夜の食事会や勉強会なども随時、企画。2014 年度は、不定期開催。

コメント：

当初より、1 年又は 2 年の活動期間としていたため、2015 年 3 月で終了。
地元行政、社協、ボランティア団体の皆様、ありがとうございました。

葉っぱ塾

代表：八木 文明　　所在地：長井市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：90 回

活動内容：■　　■避難者支援

被災地では陸前高田市「花っこ畑」や東松島市「小野仮設住宅」への物資や資金の提供、海苔養殖復活のお手伝いを行った他、「アウトドア義援隊」「山形こころサポーター」へも参加。県内では福島の子どもたちと家族の為の保養企画「森の休日」や「子どもキャンプ」を合わせて約 40 回開催。

コメント：

小さな団体ですが、「ボランティア支援基金」を呼びかけ、活動の財源として使っています。
2011 年 5 月からこれまで、700 万円以上の募金をいただいてきました。これを様々な活動に活用していますが、2012 年以降は週末保養「森の休日」が中心です。

山形文化遺産防災ネットワーク

代表：田中 大輔　　所在地：高畠町

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：400 回

活動内容：■

福島、宮城、岩手県の被災地において発生した各種文化財の現地での緊急保全処置。及び、県内に搬入しての継続的な保全処置及びデジタル化作業の実施。返還後のケア。

コメント：

県内において保全処置を行った資料は 2016 年中には現地へ返還の見込み。しかし、返還後も継続的にケアが必要。自然災害が文化的営為を襲う限り、終わりはありません。
文化財レスキューは、初めての方でもできることが沢山あります。機会があればどうぞ。

山Ⅱ震災復興ボランティア会 "Team おきたま "

代表：山岸 俊道　　所在地：南陽市

活動期間：2011 年 3 月　～　活動継続中　　延べ活動回数：140 回

活動内容：■　　■避難者支援

・南陽市と市社協が実施する「つどいの広場（避難者対象）」に茶菓子提供、交流等（30 回以上）。社協と曹洞宗復興支援室の共催「ビーズ・ブレスレット」に参加。

・米沢市避難者支援センターおいで主催のイベント準備、参加等。　「きっさ万世」の準備、茶菓子提供、交流等（100 回以上）。

・石巻市寄磯地区への物資支援、交流イベント開催（10 回以上）。置賜地区で開催する「子ども坐禅会」への招待。昨年頃から「交流の深まり」を感じられるようになってきた。





ここに掲載された団体様以外にも、多くの県民や団体により東日本大震災に関わる被災地・被災者のための支援活動が各地で行われています。

Ⅳ. 復興ボランティア支援センターの設立と機能

復興ボランティア支援センターやまがたの発足の経緯

■山形県災害ボランティア支援本部～復興ボランティア支援センターやまがたの設立

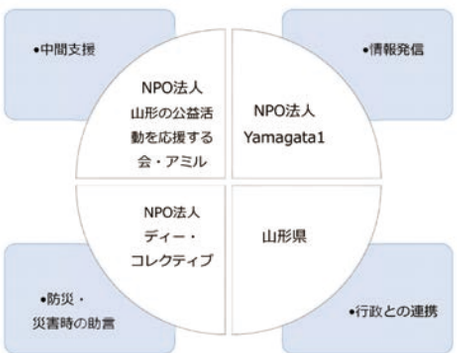
2006 年「山形県災害支援ボランティアネットワーク研究会」が発足し発災時の活動内容の検討、指針を作成。「山形県災害支援ボランティアネットワーク運営連絡会 (以下、連絡会)」に発展、発災時に「山形県災害ボランティア支援本部」を設置する図上訓練を毎年おこなっていた。
（連絡会の構成：山形県、山形県社会福祉協議会、日本青年会議所山形ブロック協議会、山形県共同募金会、日本赤十字社山形県支部、NPO 法人ディー・コレクティブ）

2011 年 3 月 13 日「山形県災害ボランティア支援本部（以下、支援本部）」を県庁に設置。県内外の支援団体が参加する情報交換会や支援活動の仲介をおこなった。参加者の間で「県内の民間団体や個人に向け数年にわたり復興活動情報を中継する情報センター」の必要性が論じられ、6 月に協議体「つながろう！ ささえあおう！ 復興支援プロジェクトやまがた」を設立、8 月に情報中間支援拠点「復興ボランティア支援センターやまがた」を開所した。



山形県災害ボランティア支援本部

図：設立時の構成団体



■復興ボランティア支援センターやまがた事業予算

● 2011 年度：
新しい公共の場づくりのためのモデル事業
専従者 1.5 名

● 2012 年度：
復興ボランティア支援センターやまがた運営費補助金　専従者　3.5 名
〔つながろう NET：孤立防止・交流促進情報提供補助事業補助金　雇用（避難者）1 名〕

● 2013 年度：
復興ボランティア支援センターやまがた運営費補助金　専従者 3 名
〔つながろう NET：孤立防止・交流促進情報提供事業費補助金　雇用（避難者 1 名）〕

● 2014 年度：
復興ボランティア支援センターやまがた運営費補助金　専従者 4 名

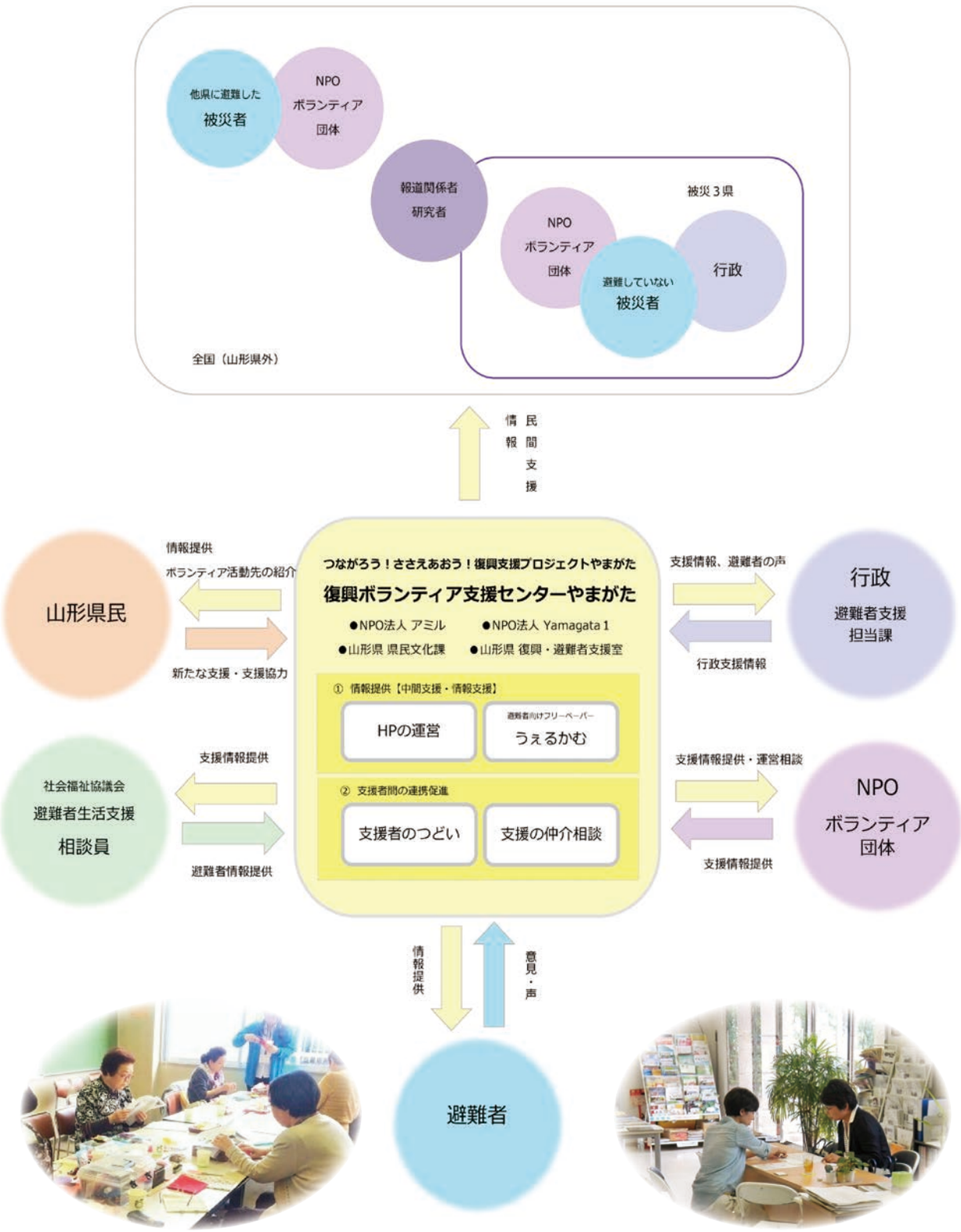


復興ボランティア支援センターやまがた 入口



復興ボランティア支援センターやまがた 室内

■復興ボランティア支援センターやまがた関係図



復興ボランテイア支援センターやまがたの機能

■ホームページの運営（情報の一本化）

東日本大震災発生後、山形県内では民間や、社会福祉協議会、市町村自治体がそれぞれ被災地でのボランティア活動や県外から山形県内に避難した方への支援を始めた。

幣センターでは、山形県内における支援活動の場所・団体・活動内容を可視化するため、東日本大震災に関わる民間・行政等の支援情報を一本化・総合的なサイトを目的としてホームページを開設した。同時に発災時期に利用者が多かった Facebook と Twitter の両アカウントを開設。ホームページ上の情報と連携し、発信を行った。

情報カテゴリ：

〔被災地支援情報（ボランティア向け）〕

〔避難者支援情報（避難者向け）〕

〔支援者・団体向け情報（支援団体・関係者向け）〕



http://kizuna.yamagata1.jp/

2011 年、被災地は、がれきの撤去や側溝の泥かきなど、人数を要するボランティアニーズが多く、被災地のボランティアセンターも大人数の団体を積極的に受け入れていた為、山形県でも行政や社会福祉協議会、学生や民間ボランティア団体を主体としたボランティアバスが参加者を募り、被災地へ日帰りで足を運ぶ形が定着した。市町村を超えて参加者を募集する団体や組織も多く、弊センターのホームページでは山形県内の団体が主催する災害ボランティアの募集情報に特化して掲載を行った。

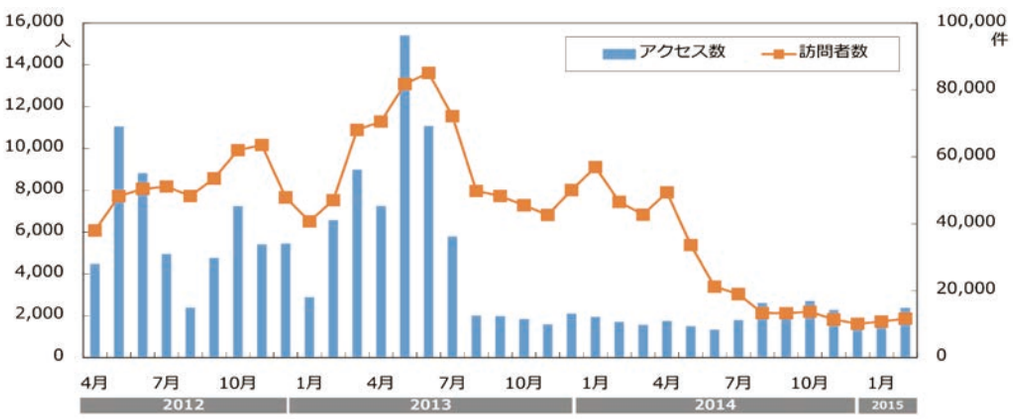
また、ボランティア希望者から被災地の状況が知りたいという問い合わせも多く、被災地の災害ボランティアセンターの調査と民間 NPO の活動情報の収集を行った。

県内の避難者が増えてくると、ボランティア団体や行政が運営する支援センターからの発信が始まった。

社会福祉協議会では避難者の支援対策として、2012 年 1 月より「避難者生活相談支援事業」を開始、8 市町社協（2013 年度以降は 9 市町社協）に生活支援相談員が配置される。生活支援相談員による避難者への訪問活動が行われると、ホームページから発信される情報は、各地で実施される避難者向けのイベントやお知らせが増加していった。避難者向けのイベントなどは市町村単位で行われることが多かったため、市町村を越えた効果的な支援を目指し、各関係機関同士をつなぐ広報としての役割や期待が大きくなった。

ホームページは避難者の他にも行政関係機関や、社会福祉協議会、ボランティア団体、県外の研究者や報道機関などからも利用されている。

図：ホームページアクセス数



■被災地ボランティアへの支援

〔研修会の実施〕

津波被災沿岸部へ足を運ぶ市民が増加していくとともに、災害ボランティアの中で小グループを指導できる人材育成が求められ、弊センターでは安全講習会と傾聴講習会を実施した。

1）ボランティアリーダー研修会　　2011.11.20
（ボランティア安全講習）
2）ボランティアリーダー研修会　　2012.1.8
（傾聴ボランティア講座　入門編）
3）ボランティアリーダー研修会　　2012.1.21
（傾聴ボランティア講座　ステップアップ編）
4）ボランティアリーダー研修会　　2012.1.23
（傾聴ボランティア講座　ステップアップ編）

〔ガイドブックの発行〕

2011年4月以降、山形県内各地から個人、学校、企業、社会福祉協議会や市民グループ単位などで被災沿岸部への災害ボランティアが徐々に増え、広範囲の被災沿岸部へ大人数のボランティアを投入する事ができるボランティアバスの運行が盛んになった。

弊センターでは、ボランティアバスを活用したケースを中心とした内容の災害ボランティア用ガイドブック「災害ボランティアガイドブック2011夏」と、発災から半年経過し、ボランティア内容ががれきの撤去から仮設住宅支援、生業支援へと多様化した状況に合わせて、「復興ボランティアガイドブック 2011 冬復興支援版」を発行。山形県内の市町村社会福祉協議会や、ボランティア団体などへ配布し、災害・復興支援ボランティア活動者の注意喚起や育成を促した。



〔活動先の仲介・相談〕

災害・復興ボランティア活動の未経験者に装備の説明や被災地状況の説明、ボランティア活動先の仲介を常時行うことで、新規ボランティアの不安軽減と、安全確保を促した。また、活動が長期化する中で、参加者の体験や活動中の二次ストレスを第3者と共有することで心理的なケアになるという事も考慮し、対応を行った。

また、被災地が広域にわたっており、地域事情や復旧のスピードや支援内容も場所によって大きく変わるため、情報を画一化できない事が多く、ボランティアニーズ仲介者の存在が必要とされた。仲介先は個人ボランティアからボランティア団体、企業、市町村社会福祉協議会、山形県内の小・中・高校などがあり、要望に応じ、個別にボランティアの事前研修なども行った。

〔山形ボラバス推進コンソーシアムとの連携〕

山形ボラバス推進コンソーシアム（やまがた社会貢献基金 2011年度協働助成事業　事業名：ボランティアバスで届けよう！山形の力を被災地へ）専従者1名
山形ボラバス推進コンソーシアムでは、被災地の復興・復旧を図るために、ボランティア活動への参加を広く県民に呼びかけ、隣接県である山形の地の利を生かし、NPO・大学・青年会議所・社会福祉協議会・山形県などが連携した。復興ボランティア支援センターやまがたと常時情報共有・協働を行う体制をとり、被災地ボランティアの円滑な参加を促した。

●構成団体
・特定非営利活動法人 Yamagata1
・特定非営利活動法人 ディー・コレクティブ
・公益社団法人日本青年会議所　東北地区山形ブロック協議会
・スマイルエンジン山形
・山形ボランティア隊
・新農業人ネットワーク山形
・TOHOKU ALL FOR ONE PROJECT（緑水の森支援活動）
・社会福祉法人　山形県社会福祉協議会
・山形県生活文化課 県民活動プロスポーツ支援室
（現：山形県企画振興部 県民文化課）

●実施内容
・ボランティアバスの運行
（山形県社会福祉協議会号、スマイルエンジン号、
復興支援やまがた号）
計31台／ボランティア数1015人
・運行一覧 WEB サイトの提供
・活動説明会の開催　3回
・サポーター研修会の開催　2回
・被災地ニーズ調査　40回

■避難者への情報支援

［避難者向けフリーペーパー“ うぇるかむ” の発行］

山形県内の避難者は、個人や家族単位での避難者が多く、コミュニティから寸断された生活の中で「孤立化」と「情報弱者」の課題が示唆された。当初、山形県内に避難してきた方々へ向けた画一化された情報提供手段がなく、また、パソコンなどのインターネット環境を持たずに避難した方が多かったという事情から、弊センターでは紙媒体での情報誌の発行を開始した。

○掲載内容：避難先で利用可能なサービスや避難者イベント、避難者へ寄せられたメッセージなど

・From 山形、From 岩手・宮城・福島
1 号 (2011/8/26) ～連載継続中
－山形での避難者イベントや、被災 3 県からのメッセージ、現地の様子などを記事で掲載

・特派員日記　避難ママのつぶやき
3 号（2011/9/28）～ 15 号（2012/4/11）
－特派員避難ママあやっぺの日記を掲載

・リレー応援エッセイ
1 号～（2011/8/26）～ 19 号 (2012/6/13)
－ボランティア団体からのエッセイを掲載

・おうえんメッセージ
20 号 (2012/6/27) ～ 35 号 (2013/3/13)
－支援団体や行政関係機関からのメッセージ掲載

・冬の生活を楽しもう
4 号 (2011/10/12) ～ 32 号 (2013/1/23)
－雪道の運転や除雪のコツを紹介

・きっずレター
16 号 (2012/4/25) ～ 36 号 (2013/4/17)
－避難者の子どもたちから絵や小作文を募集して掲載

・みんなの声
1 号 (2011/8/26) ～連載継続中
－取材や、応募はがき（2014 年開始）で避難者の声を掲載

・しあわせココロのつくりかた
28 号 (2012/11/14) ～連載継続中
－カウンセラー志村友理氏の日常生活で役立つ心の問題整理の方法コラムを掲載

・いきいきアドバイス
52 号 (2014/8/20) ～ 56 号（2014/12/17）
－早稲田大学　総合人文科学研究センター
招聘研究員 松村治氏のストレス対処アドバイス

・ひと休み
1 号 (2011/8/26) ～連載継続中
－山形の特産品を使ったスイーツや郷土料理などを紹介。レシピは在来作物案内人の鈴木淳子氏より提供

・おすすめ情報
1 号 (2011/8/26) ～連載継続中
－山形県内の利用可能なサービス、イベント情報や支援情報を掲載

・今月のキーワード
37 号 (2013/5/15) ～連載継続中
－支援施策の用語やしくみ、話題のトピックなどを少し深く掘り下げた記事を掲載

・団体紹介
39 号 (2013/7/17) ～連載継続中
－主に避難者支援を行う県内の団体の紹介を掲載

○発行頻度

・1 号（2011 年 8 月）～ 35 号（2013 年 3 月）
⇒ 毎月 2 回発行。

・36 号（2013 年 4 月）～ 59 号（2015 年 3 月）
⇒ 毎月 1 回発行。

○発行部数

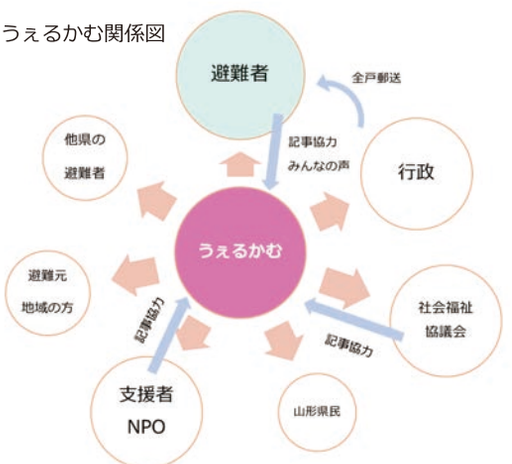
創刊号	1,000 部
2 号～	1,800 部
4 号～	2,000 部
11 号～	4,000 部
48 号～	3,700 部



○配布方法・設置先

山形県内の公共施設やスーパー、民間支援拠点などへの設置からはじまり、徐々に市町村避難者担当課と連携し避難世帯への戸別郵送を実施した。（2014 年 6 月に山形県内全ての避難世帯への郵送ルートを確保）避難者はもとより、一般の山形県民や避難元の住民、県内外の支援団体に避難者の状況を伝えるためのツールとして関係各所への設置を広げた。

図：うぇるかむ関係図



2015 年 3 月 1 日現在 うぇるかむ設置場所

うぇるかむは各地に設置しています

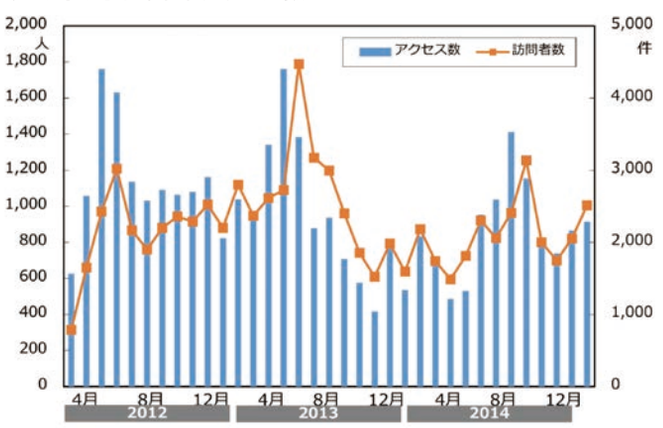
【山形市】復興ボランティア支援センターやまがた／村山総合支庁／山形県庁 1 F ／山形市内の公民館・コミュニティセンター／山形県立図書館／山形市避難者交流支援センター／山形市総合福祉センター／真宗大谷派山形教会／立石寺華蔵院／ままカフェ @ home ／福山ひろば／ふくしま子ども未来ひろば／あいびぃ保育園／りとる福島／山形市市民活動支援センター／チェリア／アンビランス／ Hair with Water ／生活協同組合共立社（CO-OP）（山形県内）／ハローワーク山形 **【天童市】**願行寺 **【寒河江市】**寒河江市社会福祉協議会／フローラ SAGAE 1 F ／村山総合支庁西庁舎／寒河江市立図書館／寒河江郵便局／ゆ～チェリー **【上山市】**上山市社会福祉協議会／上山市まちづくりセンター「ござってぇ」／長屋門ギャラリー **【東根市】**東根市タントクルセンター／東根市社会福祉協議会 **【村山市】**甑葉プラザ **【米沢市】**置賜総合支庁／米沢市役所 1 F ロビー／避難者支援センターおいで／万世コミュニティセンター／おいたまサロン・ふわっと／ハローワーク米沢 **【南陽市】**南陽市社会福祉協議会 **【高畠町】**高畠町役場 1F ／浜田広介記念館／永和軒 **【川西町】**おきサポ／おもいで館 **【鶴岡市】**鶴岡市立図書館／フクシマの子どもの未来を守る家 **【酒田市】**酒田市ボランティアセンター／酒田市公益活動支援センター／ NPO 法人にこっと／ハローワーク酒田 **【庄内町】**庄内町社会福祉協議会 **【三川町】**庄内総合支庁／イオンシネマ三川 **【新庄市】**最上総合支庁 **【金山町】**山形県遊学の森「木もれび館」**【福島県】**うつくしま NPO ネットワーク／ NPO 法人福島ライフエイド／ NPO 法人シャローム／ NPO 法人ピーンズ福島／（一社）ふくしま連携復興センター／相双ボランティア準備室／南相馬市立中央図書館 **【宮城県】**東北ろっけんパーク／ハート＆アート空間 " ビーアイ " **【秋田県】**道の駅せんなん **【埼玉県】**With you さいたま

〔つながろう NET〕

山形県内には自主避難による母子が多く避難しており、避難当初はパソコンのインターネット環境が無い家庭が多かったため、携帯電話で閲覧できる避難者用のサイトを開設。

「つながろう NET」という名称で、フリーペーパー“うぇるかむ”の記事や、記事には掲載しきれない生活情報や保養情報なども盛り込んだ。また、うぇるかむの発行から配布までのタイムラグを解消する役割も目指した。2012 年度、2013 年度は職員に避難者を雇用。

図：つながろうネットアクセス数





http://tsunagarou.net/

■支援団体への後方支援

〔支援者のつどい
～東日本大震災支援関係者連絡会議～の開催〕

2011 年 9 月より、定期的に被災地支援、避難者支援における情報交換会を始めた。支援団体が生業との掛け持ちで活動していることから、開催日は毎月 1 回第 3 水曜日の夕方に設定した。（2012 年 4 月より第 4 水曜日開催）

県・市町村の避難者担当課や社会福祉協議会、NPO 団体や、個人のボランティアなど、様々な立場から毎回約 20 ～ 40 人の参加があり、活動の紹介や現状の共有・課題等について話し合われている。

2012 年 4 月　山形県災害ボランティア支援本部が主催する定期連絡会は、復興ボランティア支援センターやまがたが主催する定期連絡会（支援者のつどい）」に統合された。



支援者のつどい



〔県外ネットワーク〕

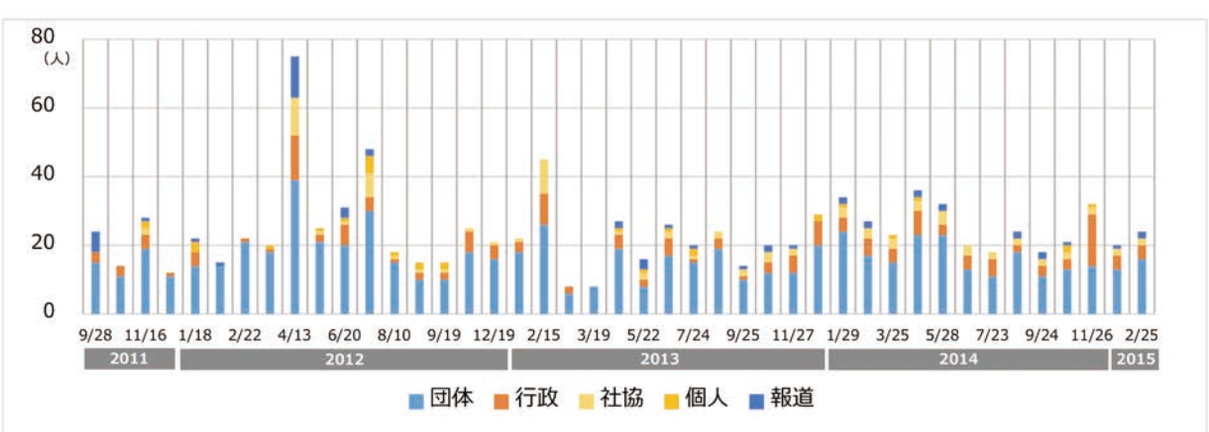
隣県や全国的な中間支援組織と随時情報交換を行っている。

2012 年にはＪＣＮ（東日本大震災全国ネットワーク）と共催で広域避難者支援ミーティングを開催。全国の広域避難者支援団体やネットワークからも情報収集を行う。

その他にも宮城県や福島県の中間支援団体が構成する支援ネットワークに登録し、中間支援団体が開催する現地会議や各団体へ赴き、定期的に現地の状況と避難者の状況について情報交換を行っている。

また、山形県内の支援活動において、県外の支援団体や行政、調査機関の相談窓口となっている。

図：支援者のつどい 参加人数



〔やまがた・ささえあいメーリングリスト／支援情報メールマガジンの運営〕

山形県内で活動する支援団体の情報交換を目的に、2011 年 8 月やまがた・ささえあいメーリングリストを開設した。

発災当初、被災地の情報が乏しく、現地へ赴いたボランティアや支援団体がメーリングリスト上で現地状況を発信し、支援の調整に活用された。また支援物資の運搬や受け入れ先の相談、ボランティアの募集など細かな情報にも活用された。震災から 1 年程度経過すると、緊急性のある情報交換は減少した。

2012 年より山形県内での避難者支援が活発になると、県内の避難者支援イベントなどの告知が増え始める。

2013 年 8 月、やまがた避難者支援協働ネットワークが山形県により設立されメーリングリストの立ち上げにより、やまがた・ささえあいメーリングリストで担っていた避難者支援の情報交換の役割は移行される形となった。被災地支援や、支援者情報の交換は現在も続いている。

弊センターに寄せられたイベントや支援活動情報は、メーリングリスト内で定期的に登録者に共有できるよう、支援活動情報メールマガジンも開始。（2012 年 3 月～毎週木曜日配信）県内の支援活動情報の円滑な共有を目指している。

＊やまがたささえあいメーリングリスト登録者数
１０９人：2015 年 1 月 26 日現在

＊やまがた避難者支援協働ネットワーク参加者数
１１７団体・個人：2015 年 1 月 28 日現在

〔支援団体の仲介・相談〕

2011 年は被災地支援を行う団体が多く、被災地のボランティア受け入れ先団体の相談、支援物資や寄付金の仲介などから、ボランティアバス運営者にはボランティア募集の広報サポートなどを中心に行った。

2012 年より避難者支援団体の広報や活動資金の相談などが増加。

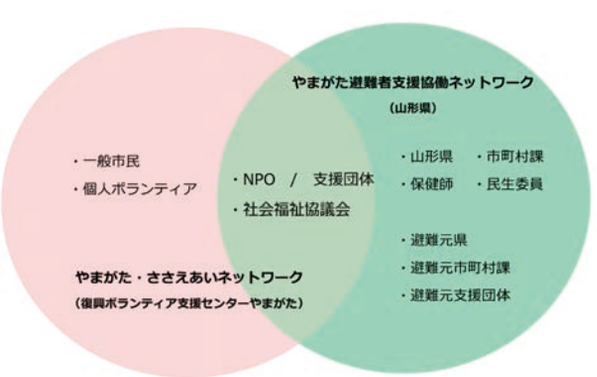
避難者支援では地域に根差した活動が中心となり、被災地支援よりも行政・社会福祉協議会・NPO との連携や支援の調整が必要とされたため、山形県内の市町村避難者担当課、社会福祉協議会の避難者生活支援相談員の配置市町村を重点に巡回、調査を定期的に行い、三者間の情報の中継や支援の仲介を行った。

また、県外の支援団体、大学や研究者などが山形県内における行政、民間の支援の調査を行う際の情報仲介も行う。



ふくしま地域活動団体サポートセンター・
ふくしま連携復興センター共催会議

図：ネットワーク関係図



Ⅴ.おわりに

うぇるかむ



創刊第１号　2011年８月26日



第２号　2011年９月14日



第３号　2011年９月28日



第４号　2011年10月12日



第５号　2011年10月26日



第６号　2011年11月14日



第７号　2011年11月24日



第８号　2011年12月７日



第９号　2011年12月21日



第10号　2012年１月25日



第11号　2012年２月８日



第12号　2012年２月22日



第13号　2012年３月７日



第 14 号　2012 年 3 月 21 日



第 15 号　2012 年 4 月 11 日



第 16 号　2012 年 4 月 25 日



第 17 号　2012 年 5 月 16 日



第 18 号　2012 年 5 月 30 日



第 19 号　2012 年 6 月 13 日



第 20 号　2012 年 6 月 27 日





第 21 号　2012 年 7 月 11 日



第 22 号　2012 年 7 月 25 日



第 23 号　2012 年 8 月 8 日



第 24 号　2012 年 9 月 12 日



第 25 号　2012 年 9 月 26 日



第 26 号　2012 年 10 月 10 日



第 27 号　2012 年 10 月 24 日



第 28 号　2012 年 11 月 14 日



第 29 号　2012 年 11 月 28 日



第 30 号　2012 年 12 月 12 日



第 31 号　2012 年 12 月 26 日



第 32 号　2013 年 1 月 23 日



第 33 号　2013 年 2 月 13 日



第 34 号　2013 年 2 月 27 日



第 35 号　2013 年 3 月 13 日





第 36 号　2013 年 4 月 17 日



第 37 号　2013 年 5 月 15 日



第 38 号　2013 年 6 月 19 日



第 39 号　2013 年 7 月 17 日



第 40 号　2013 年 8 月 21 日



第 41 号　2013 年 9 月 18 日



第 42 号　2013 年 10 月 16 日



第 43 号　2013 年 11 月 20 日



第 44 号　2013 年 12 月 18 日



第 45 号　2014 年 1 月 22 日



第 46 号　2014 年 2 月 19 日



第 47 号　2014 年 3 月 19 日



第 48 号　2014 年 4 月 16 日



第 49 号　2014 年 5 月 21 日



第 50 号　2014 年 6 月 18 日



第 51 号　2014 年 7 月 16 日



第 52 号　2014 年 8 月 20 日



第 53 号　2014 年 9 月 17 日



第 54 号　2014 年 10 月 15 日



第 55 号　2014 年 11 月 19 日



第 56 号　2014 年 12 月 17 日



第 57 号　2015 年 1 月 21 日



第 58 号　2015 年 2 月 18 日



第 59 号　2015 年 3 月 18 日

YAMAGATA 災害ボランティアガイドブック

■ 2011 夏 (http://kizuna.yamagata1.jp/modules/con01/index.php?content_id=5)







【内容】
・はじめに
・ボランティアって
なんだろう？
・ボランティア活動を
するために
・被災地でのボランティア
活動とは？
全 18 ページ

■ 2011 冬 (http://kizuna.yamagata1.jp/modules/con01/index.php?content_id=4)







【内容】
・これまでの活動と現状
・生活支援活動
・復興支援活動
・環境を整える活動
・ボランティア隊
・Infomation
全 18 ページ

作成資料

■ 山形県内の避難者 交流会一覧・主要な保養施設・団体一覧



復興ボランティア支援センターやまがたパンフレット

■**ホームページ**（http://kizuna.yamagata1.jp/modules/con01/index.php?content_id=1）





発行に寄せて

特定非営利活動法人　Ｙａｍａｇａｔａ１
事務局長　海谷　美樹

今、何が必要なのだろう。私たちは何ができるだろう。それをいつも考えながら、情報というものを最大限に活用し、支援の形を模索してきました。復興ボランティア支援センターやまがたも、フリーペーパー「うぇるかむ」も、「今すぐ必要だ」という強いニーズを感じて取り組んだ事業でした。決して平坦な道ではありませんでしたが、たくさんの方々のご協力をいただき、心強いスタッフにも恵まれて、今まで継続することができましたことを、心より御礼申し上げます。

震災から４年目を迎える今、解決できたこともあれば、今もまだ停滞したままの課題、新たに発生した課題等もある中で、多くの方が過ごしておられます。そして、山形県内外で支援活動にご尽力されている方々もたくさんおられます。復興ボランティア支援センターやまがたが、これからも双方のご縁をつなぐ架け橋となり、一助となることができましたら幸いです。

ウェザーハート災害福祉事務所 代表
特定非営利法人 ディー・コレクティブ代表理事
（2011 年当時）
千 川 原　公 彦

これまで災害救助法が適用されるなどし、災害 VC を運営するといった経験が無かった山形県。突如発生した東日本大震災においては､「復興ボランティア支援センターやまがた」の例に見られるように、本県では被災隣県の支援と山形県内の支援者をつなげることを目的にした多くの事業・活動が、手探りのなか展開された。

しかし、災害支援活動上欠かすことのできない要素は「needs（被災者の求めるもの）とseeds（山形県が提供できる強み）の調整をどれだけ実現し、誤差を軽減できるか」という事だが、今回の活動範囲は広く県域を越えており、本県の場合はこの点について検証する方法は現時点でまだ見つかっていない。

そして、今後発災する可能性が高い大規模災害としては首都直下型地震や南海トラフを震源とする西日本大震災等があげられている。現地では災害対策も加速しているが、同時に遠隔地からの支援体制のあり方も問われている。大規模災害の復旧・復興には、隣県・遠隔地からの支援が不可欠だからだ。

そういった意味でも、貴重な経験をした本県において活動記録を纏めた事には大きな意義がある。この「記録」がいつか「検証」となり、ひいては遠隔地からの支援活動・災害対策の「提案」へとつながっていく事を期待したい。

山形県環境エネルギー部危機管理・くらし安心局
危機管理課復興・避難者支援室

今般の東日本大震災では、「山形県災害ボランティア支援本部」が設置され、県内の関係ＮＰＯ団体の皆様から参加いただき、被災地で支援活動を展開するＮＰＯやボランティアの後方支援のほか、県内避難者を支援するＮＰＯやボランティアの後方支援を中心にして活動を展開しました。

様々な支援を必要とされる状況が続くなか、ボランティア活動を長期的・安定的に継続するため、震災から５ヵ月後、官民協働の活動拠点として、「復興ボランティア支援センターやまがた」は誕生しました。

甚大な被害を受けた被災地において本県から多くのＮＰＯやボランティアが復旧・復興に向けた活動を展開するにあたり、情報収集・提供したほか、ボランティアの参加募集など、重要な役割を果たしてきました。

一方、津波による家屋の倒壊による避難のみならず、東京電力福島第一原子力発電所事故により、山形県には最も多い時に約１万４千人の方が避難を余儀なくされました。

そうした避難者への支援として、当初は寝泊まりする避難所やそこで暮らすための食料・衣料といった物資面の支援が必要とされましたが、避難生活が長期化するに伴って、避難先での生活に関する住まい・就労・子育て・教育などへの支援とともに、避難者同士の交流や避難元・避難先での情報提供、心の悩みへの相談対応などが求められてきました。

このように多様化・個別化してきた避難者ニーズに対応するには、行政や社会福祉協議会などの関係機関だけでは支援が限られることから、ＮＰＯやボランティアなどの支援団体・個人による多方面に渡る支援が行われ、多様なニーズに応えてきました。これまでの支援活動において「復興ボランティア支援センターやまがた」は支援団体への情報提供や意見交換の場の開催、避難者への支援情報の提供を行うなどの重要な役割を果たしてきました。引き続き、避難者の立場に立ち、きめ細やかな支援を行えるよう、県として支援を行ってまいります。

この冊子に記載されている内容は、発行者の独自調査によるものであり、すべての個人・支援団体の記録までは至っていない事をご理解頂ければ幸いです。

また、この冊子の作成にあたり、様々な形でご支援・ご協力頂きました多くの支援団体や関係機関の皆様に、日頃の活動に敬意を表するとともに、深く感謝と御礼を申し上げます。

東日本大震災における　山形県の協働・支援活動の記録
～つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた～

発行・編集
『つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた』
復興ボランティア支援センターやまがた
〒990-2412
山形県山形市松山３丁目 14-69 FM 山形ビル１階
TEL 023-674-7311　FAX　023-674-7312
発行日　2015 年３月
印　刷　有限会社 笹原印刷



『つながろう！ささえあおう！復興支援プロジェクトやまがた』

復興ボランティア支援センターやまがた